

自治体名	滋賀県教育委員会 担当課：保健体育課 電話番号：077-528-4627
------	---

1. 事業の概要について

1.1 地域における現状・課題

部活動の指導のうち、平日の勤務時間外および休日の業務は、教員の教育課程内の業務に支障がでることや、休養日の確保の妨げにも繋がっている。

教員の働き方改革が進められる中、持続可能な部活動のあり方について、子どもたちのスポーツ機会の確保を保障しつつ、検討を進める必要がある。そこで、スポーツ活動の運営や指導の主体を地域に移行し、子供たちのスポーツ機会を将来にわたって確保・充実できるように本事業で実践研究に取り組むこととする。

1.2 実践研究における取組目標

地域移行に関する県の方針や取組を検討できるよう、部活動の地域移行に関する検討会を設置する。（年3回の開催）

また、県内各市町とともに、受け皿となる地域団体（総合型地域スポーツクラブ等）にも情報提供を行い、各市町の現状に合った取り組みを検討する。また、実践研究を委託する市における連絡協議会等で、有識者の派遣や担当指導主事等の説明を通じて、市町の課題を把握し、その解決に向けて助言する。

1.3 実践研究の運営体制

（所掌事務）検討会は、次に掲げる事項を処理する。

（1）部活動の現状と課題に関する事項、（2）部活動の地域移行に関する事項、（3）その他必要な事項（構成員）

座長	滋賀県教育委員会 教育次長
教育委員会	教職員課、高校教育課、幼小中教育課、生涯学習課、保健体育課
文化スポーツ部	文化芸術振興課、スポーツ課、競技力向上対策室
関係団体等	滋賀県スポーツ協会、滋賀県中学校長会、滋賀県中学校体育連盟

2. 地域連携や地域移行の推進に向けた体制整備の取組について

（1）市町担当部局の課題

- ・受け入れ団体の不足 ・コーディネーターの人選 ・協議会の立ち上げ時期 ・協議会メンバーの人選
- ・部活動指導員・外部指導員の不足 ・部活動指導員に対する謝金の確保 ・部活動指導員の引率旅費
- ・指導者確保の時期（人事異動で変化） ・町単独で考えられない ・施設の確保、使用料の徴収
- ・学校教員の温度差 ・学校教員の自チームへのこだわり ・文化に関しては指導者資格がない
- ・文化部に関する関係団体がみつからない

（2）スポーツ関係団体の課題

- ・部活動の教育的価値を地域クラブで如何に継承・発展できるか。
- ・総合型クラブなど、中学生を受け入れる準備がない、指導者・運営スタッフも高齢化。
- ・スポーツ少年団における小学生と中学生のルールや用具の違い、体格差。
- ・競技団体として広域で生徒を集めたいが、保護者の送迎など課題がある。
- ・大学生に責任を負わせられない。サブの立場として、メインの指導者は必要である。
- ・指導者には、ボランティアではなく、適切な対価を確保して欲しい。

3. 実践研究の成果と今後の課題

4.1 実践研究での検証から得た成果（全体的な方向性として）

- まずは、市町でしっかりと議論をして、大きな方向性を出す。
- そのためにも、部活動指導員や外部指導員を活用した地域連携の形で、事例を積み上げながら、地域の協力を得られる体制を構築する。
- 地域移行は一足飛びではなく、時間をかけて取り組んでいく。
- 文化部に関しては、地域団体で協力が得られるのが少数となっている現状がある。

4.2 地域移行における今後の課題と対応

令和5年度は、国の予算を活用して実証事業を実施しつつ、地域における生徒の新たなスポーツ・文化芸術環境の整備を検討し、進める協議会を設置し、本県における方向性、具体的な取組の内容、スケジュール等を示す方針策定の予定。

1 県方針

事業・事項	第1四半期(4～6)	第2四半期(7～9)	第3四半期(10～12)	第4四半期(1～3)
公立中学校の部活動の地域移行に関する方針	第1回協議会(素案、修正等) 県方針(素案)	市町、関係団体意見交換 WG による県方針(案)検討	県方針策定	県方針周知 市町、関係団体意見交換

2 検討会・協議会等

部活動の地域移行に関する検討会	第1回協議会(5月) 県方針(素案)検討	第2回協議会(9月) 県方針(案)検討	第3回協議会(11月) 県方針(案)検討	第4回協議会(2月)
-----------------	-------------------------	------------------------	-------------------------	------------

3 教育委員会、議会対応等

教育委員会、県議会への説明等	常任委員会、教育委員会 県方針素案等の説明		常任委員会、教育委員会 県方針案等の説明	
----------------	--------------------------	--	-------------------------	--

「部活動の指導について」 アンケート調査結果について

1. 調査の目的

- ・部活動の現状と問題点及び課題や今後の部活動のあり方等について検討するための資料とする。
- ・休日の運動部活動の地域移行に関する具体的な取組等を検討するための資料とする。

2. 調査対象

- ・部活動に加入する生徒(第1学年～第3学年)
- ・部活動顧問 ※複数の顧問が配置されている場合は、全ての顧問を対象とする
- ・部活動指導員

3. 回答期間

令和4年7月12日(火)～8月3日(水)

4. 抽出校(部)

- ・県内19市町の公立中学校、県立中学校より43校で調査する。(運動部39校、文化部4校)
- ・抽出校のうち、1つの部がアンケートに回答する。
- ・部活動指導員を配置する部より1部(任意)で調査する。

5. 調査結果の活用

- ・集計後、市町教育委員会等へ情報を提供する。
- ・県の運動部活動の地域移行のための推進計画策定のための資料とする。

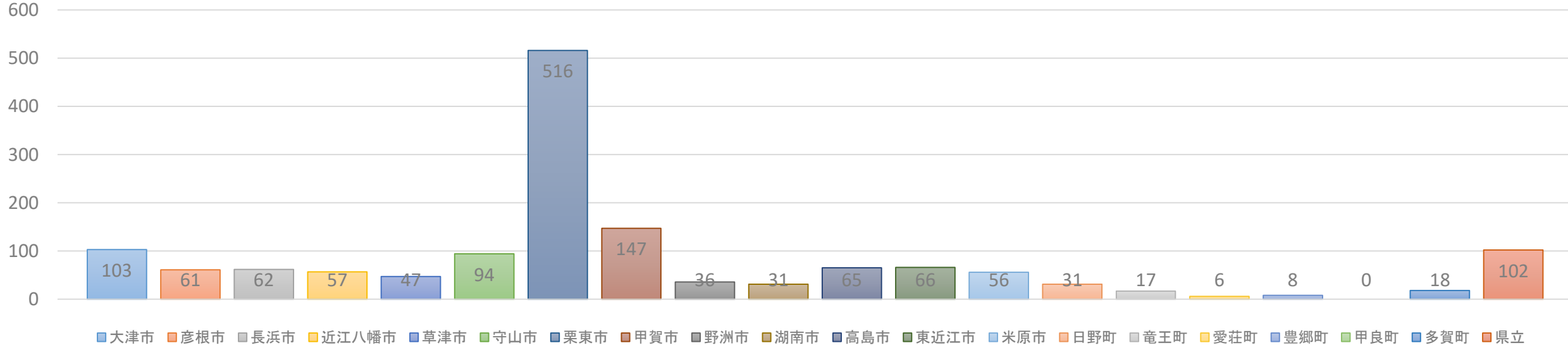
「部活動の指導について」 アンケート調査について 【生徒】

協力依頼校 県立 1校 市町立 42校

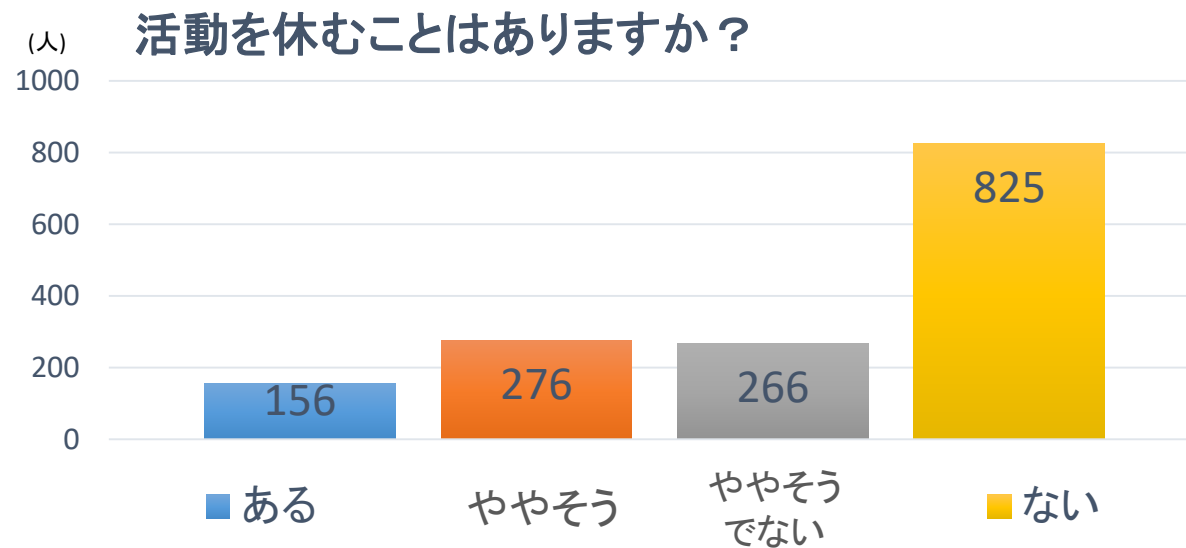
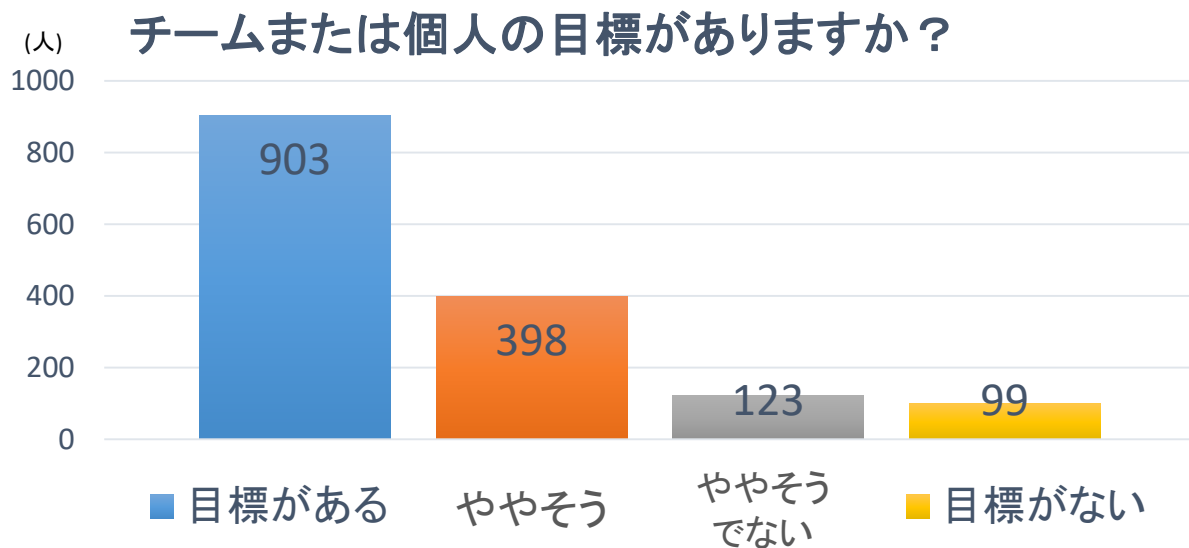
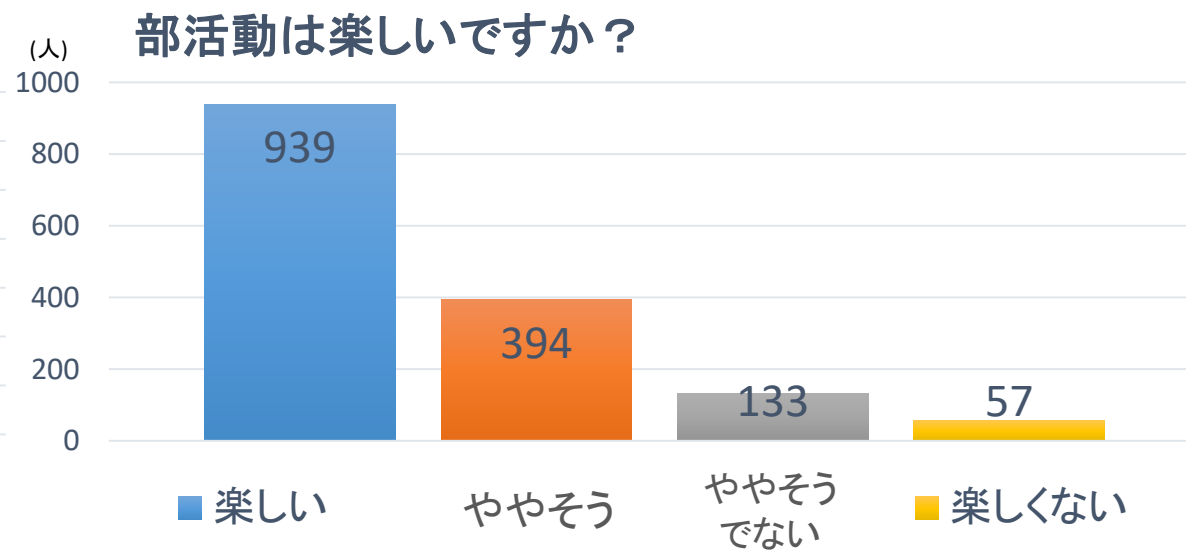
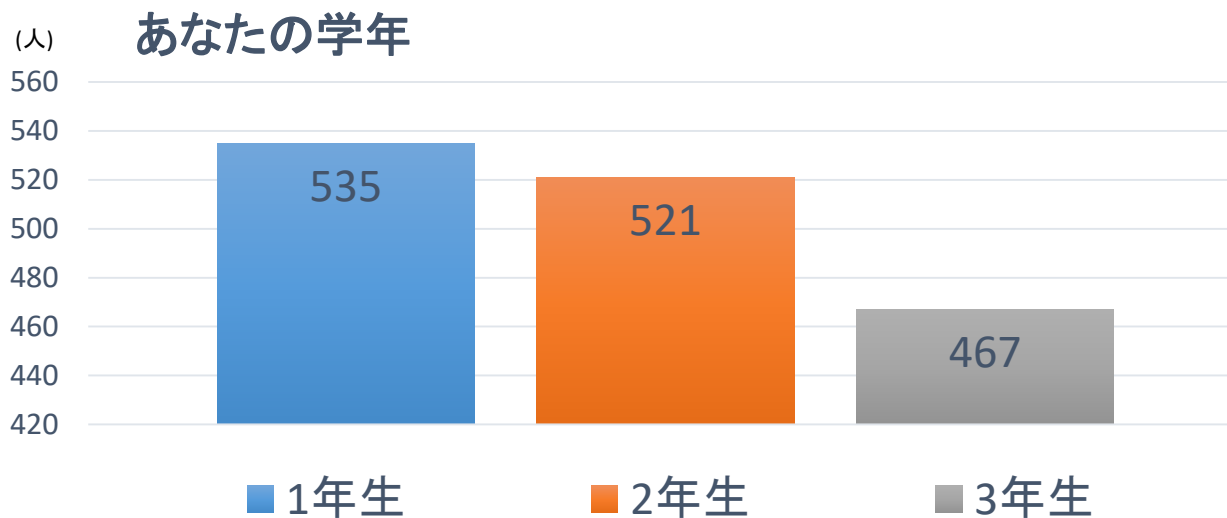
市町名	学校数	中学校名
大津市	4校	日吉中・皇子山中・栗津中・瀬田北中
彦根市	3校	中央中・南中・鳥居本中
長浜市	3校	南中(文化)・びわ中・西浅井中
近江八幡市	3校	八幡中・八幡東中・八幡西中
草津市	3校	草津中・高穂中・老上中
守山市	3校	守山中(文化)・守山南中・明富中
栗東市	3校	栗東中・栗東西中・葉山中
甲賀市	3校	水口中・甲賀中・信楽中
野洲市	2校	野洲中・野洲北中
湖南市	2校	石部中(文化)・甲西中

市町名	学校数	中学校名
高島市	2校	安曇川中・湖西中
東近江市	3校	朝桜中・能登川中・聖徳中
米原市	2校	柏原中(文化)・大東中
日野町	1校	日野中
竜王町	1校	竜王中
愛荘町	1校	愛知中
豊郷町	1校	豊日中
甲良町	1校	甲良中
多賀町	1校	多賀中
県立	1校	水口東中

(人) アンケート回答数 1523名

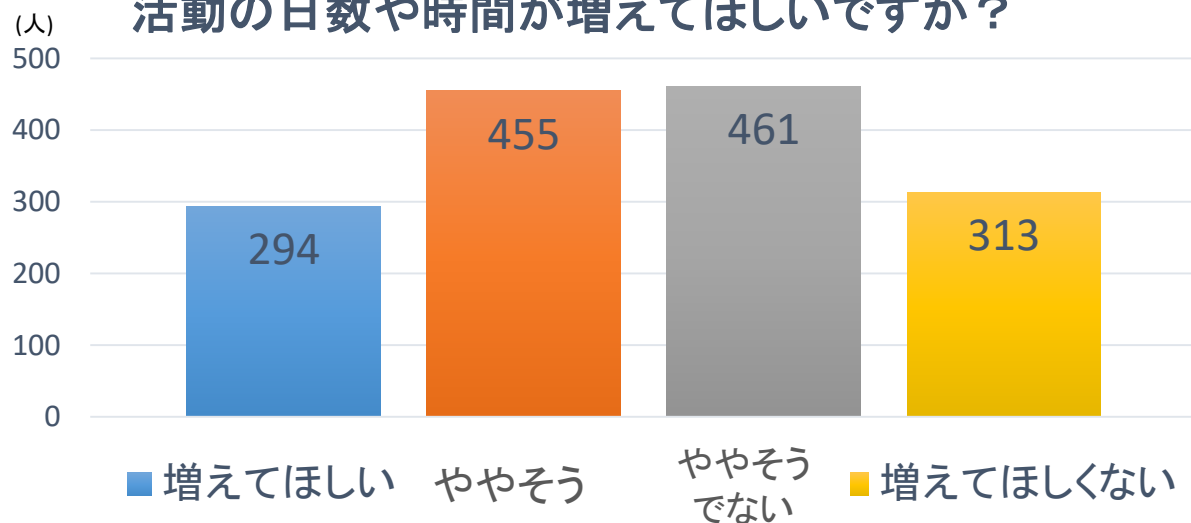


「部活動の指導について」 アンケート調査について 【生徒】

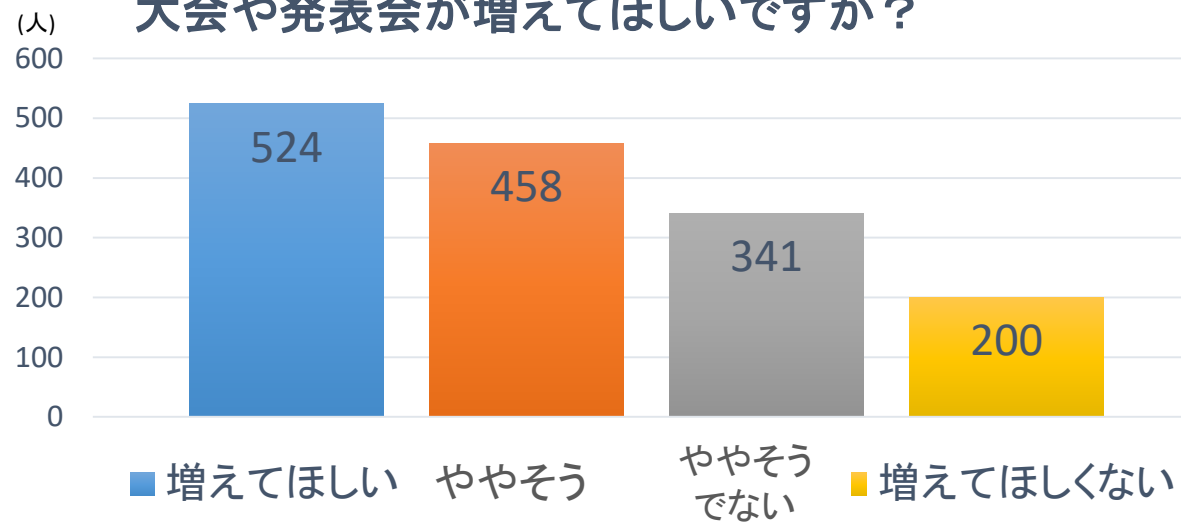


「部活動の指導について」 アンケート調査について 【生徒】

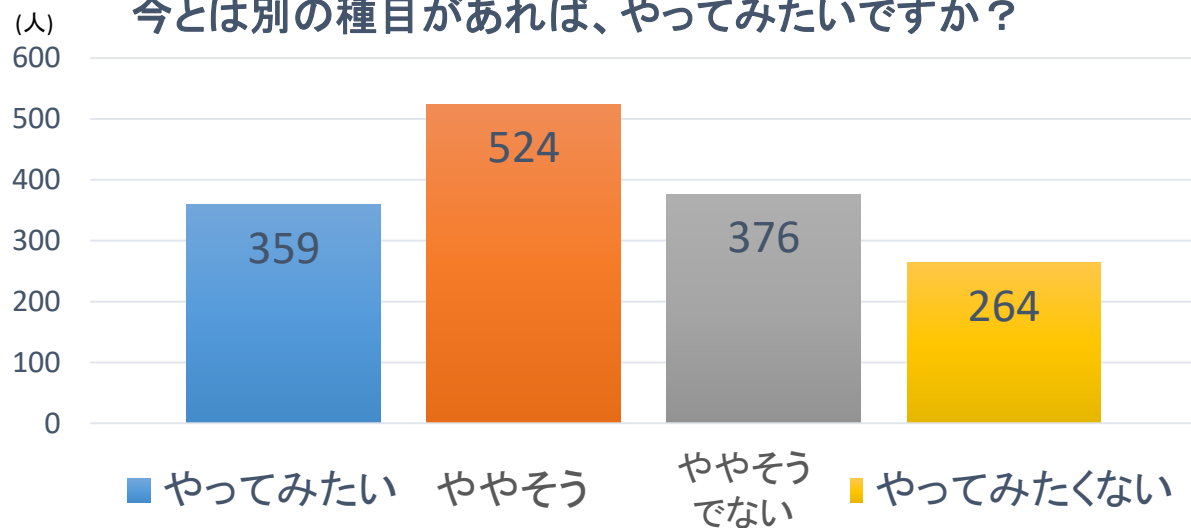
活動の日数や時間が増えてほしいですか？



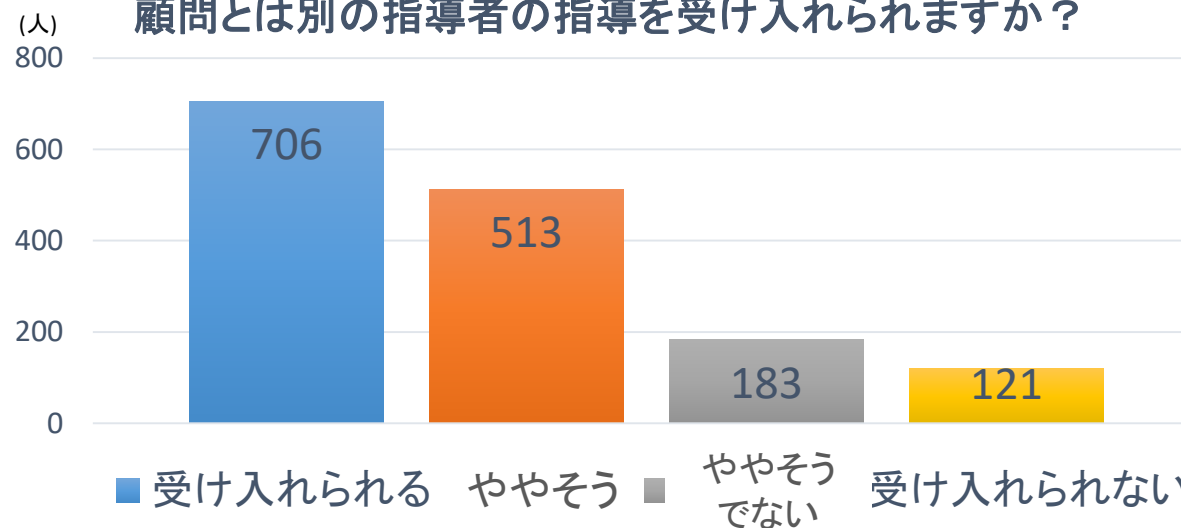
大会や発表会が増えてほしいですか？



今とは別の種目があれば、やってみたいですか？



顧問とは別の指導者の指導を受け入れられますか？



「部活動の指導について」 アンケート調査について 【生徒－①】

【学校の枠を超えて、違う中学校の生徒たちと同じチーム(団体)で活動することについて、どう思いますか。】

- ・楽しく成長できるので、いいと思う。
- ・他の中学校の人たちと交流できてとても良いと思う。
- ・自分が持っていない技術を学ぶことができるからいいと思う。
- ・他校の人たちの技がどんなのがあるのか知りたいので、楽しそうだと思う。
- ・同じスポーツをすることで今まで関わりのなかった人を交流できてとても素晴らしいと思う。
- ・いつもとは違う練習メニューが出来たり、そこで相手の得意技、特徴を見つけ出しそれをさせないようなプレーや判断力が身につけられたりするメリットがあるので良いと思う。
- ・連携しにくい分連携しようと頑張れ、学校のチームの団結力がアップすると思う。
- ・今とは違う環境で活動できるので色々な人と対戦できるからいいと思う。
- ・ライバルやから、一緒にしたくない。ライバル校には勝ちたいし、ずっとライバルでいたほうが面白い。
- ・とてもいいと思います。私は科学部に入りましたが、動画編集部や軽音楽部などもっと興味が惹かれる部活動があったらいいなと思う。
- ・部活の他にクラブチームをやっているけれど、他のチームと合同で試合をすることで相手のチームの強いところ弱いところ色々あるから、そこをお互いにカバーしながらするととても楽しい。

「部活動の指導について」 アンケート調査について 【生徒－②】

【学校の枠を超えて、違う中学校の生徒たちと同じチーム(団体)で活動することについて、どう思いますか。】

- ・友人の輪が広がりにいいと思う。また、普段の学校生活とは違うメンバーと活動することでメリハリがつくと思う。
- ・他の学校との交流の場を広められたり、選手からの刺激をもらえるのでいい機会になると思う。
- ・自分の学校の人だけでいい。知らない人とやるのは気まずいから。
- ・いいと思うけど、ややこしくなったり強さが偏りそう。
- ・別の学校なのに同じチームで活動することは変だと思う。別の人とは関わりにくい。受け入れにくいと思う。馴染めにくそう。
- ・人と新しく関係を築くのが得意な人には新しい交流が増えていいと思う。でも、慣れない人の前だと心細くなって十分に活動できない人には厳しいと思う。
- ・もっと上手な人のお手本を見れるのは勉強になるからいいけど、人がとってたくさん増えたら、練習する時間が減ってしまうからという考えもある。
- ・色々なやり方があるということが学べるので楽しいし、部員の意外な一面も見れたりするので好き。でも移動が面倒くさかったり、たまに気まずい。
- ・私はあまり良くないと思う。今のチーム内で仲が悪いので、さらに揉め事が増えると思う。さらに、部員が増えると競争心は強くなると思うけど、行き過ぎた競争心が強くなりそう。

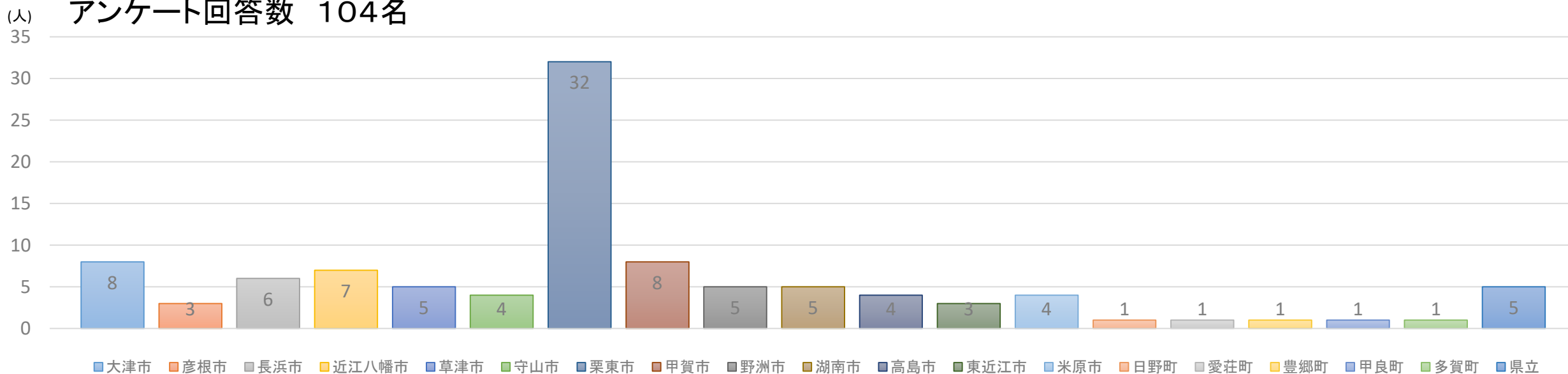
「部活動の指導について」 アンケート調査について 【教員(顧問)】

協力依頼校 県立 1校 市町立 42校

市町名	学校数	中学校名
大津市	4校	日吉中・皇子山中・栗津中・瀬田北中
彦根市	3校	中央中・南中・鳥居本中
長浜市	3校	南中(文化)・びわ中・西浅井中
近江八幡市	3校	八幡中・八幡東中・八幡西中
草津市	3校	草津中・高穂中・老上中
守山市	3校	守山中(文化)・守山南中・明富中
栗東市	3校	栗東中・栗東西中・葉山中
甲賀市	3校	水口中・甲賀中・信楽中
野洲市	2校	野洲中・野洲北中
湖南市	2校	石部中(文化)・甲西中

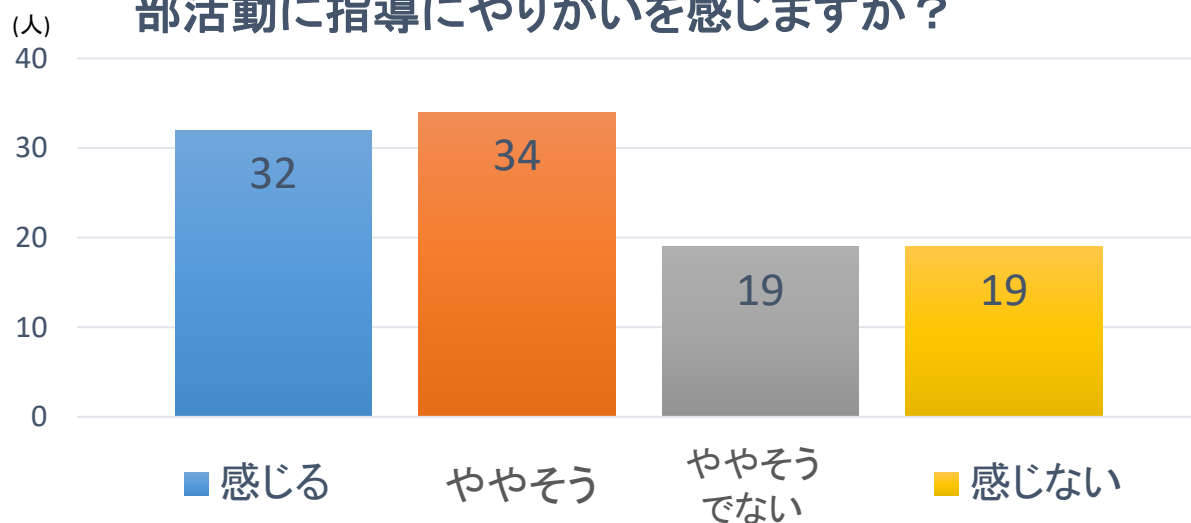
市町名	学校数	中学校名
高島市	2校	安曇川中・湖西中
東近江市	3校	朝桜中・能登川中・聖徳中
米原市	2校	柏原中(文化)・大東中
日野町	1校	日野中
竜王町	1校	竜王中
愛荘町	1校	愛知中
豊郷町	1校	豊日中
甲良町	1校	甲良中
多賀町	1校	多賀中
県立	1校	水口東中

アンケート回答数 104名

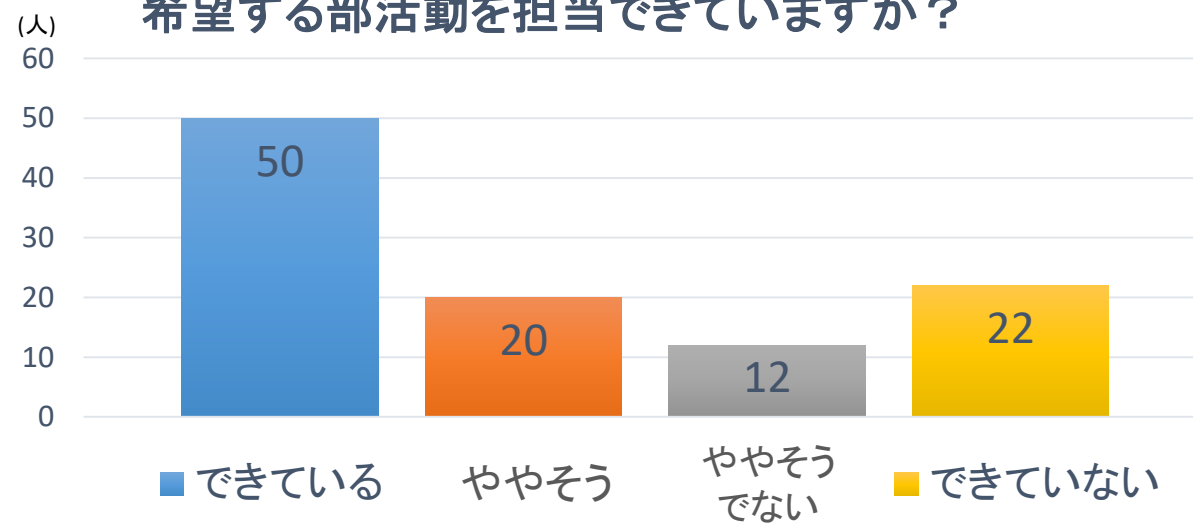


「部活動の指導について」 アンケート調査について 【教員(顧問)】

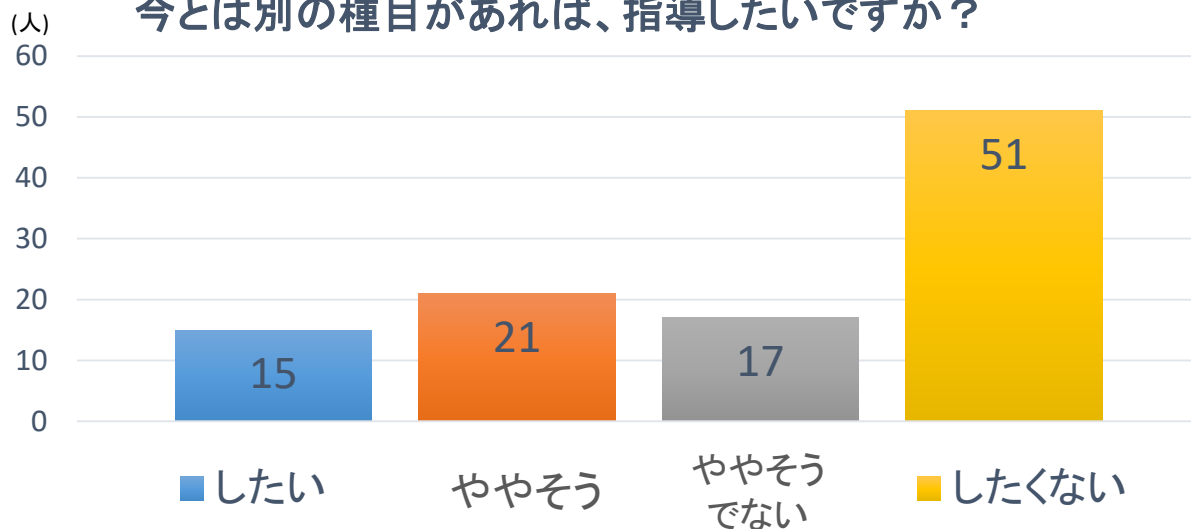
部活動に指導にやりがいを感じますか？



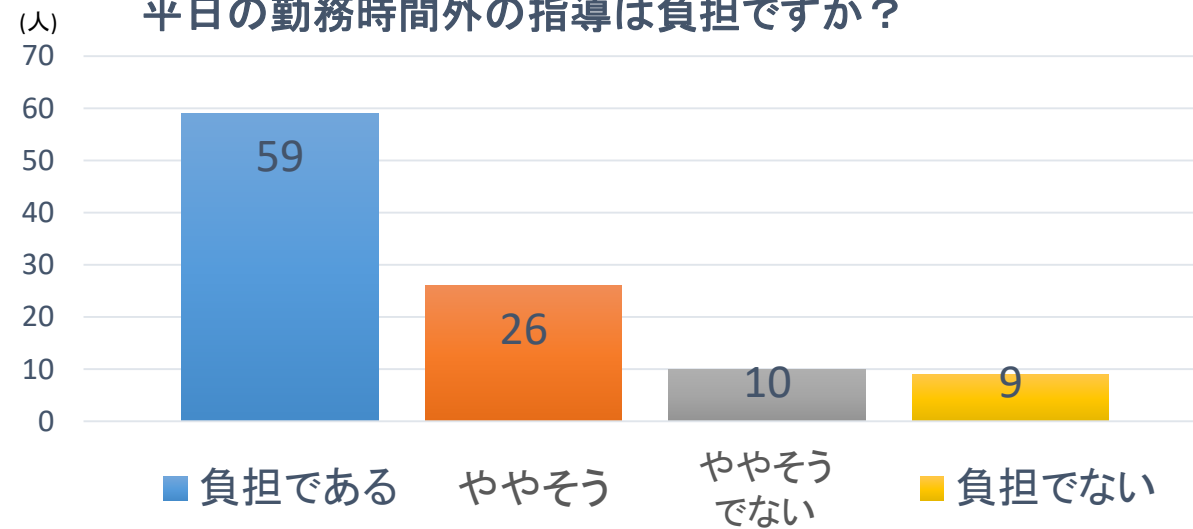
希望する部活動を担当できていますか？



今とは別の種目があれば、指導したいですか？

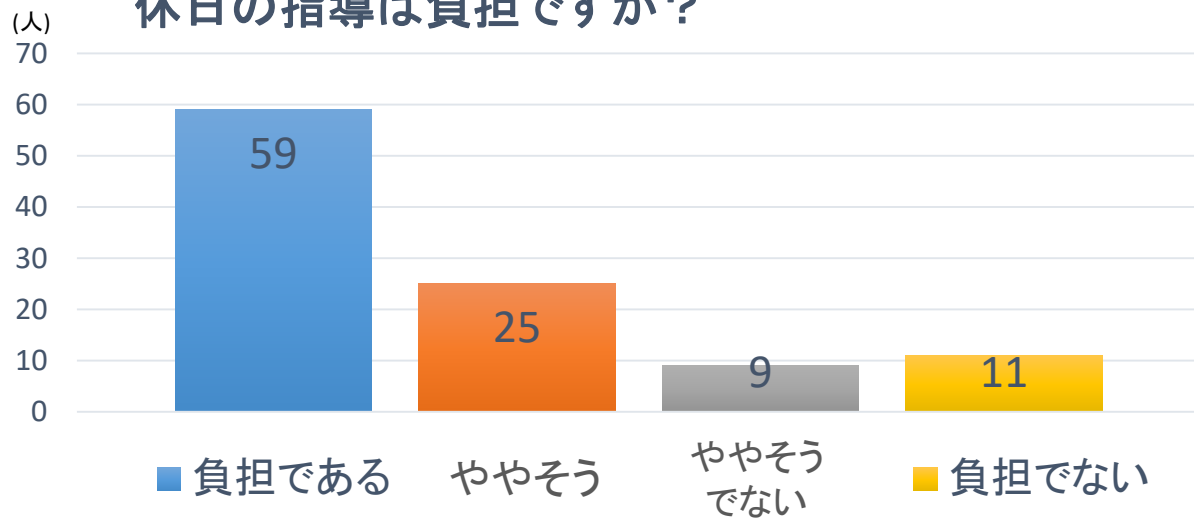


平日の勤務時間外の指導は負担ですか？

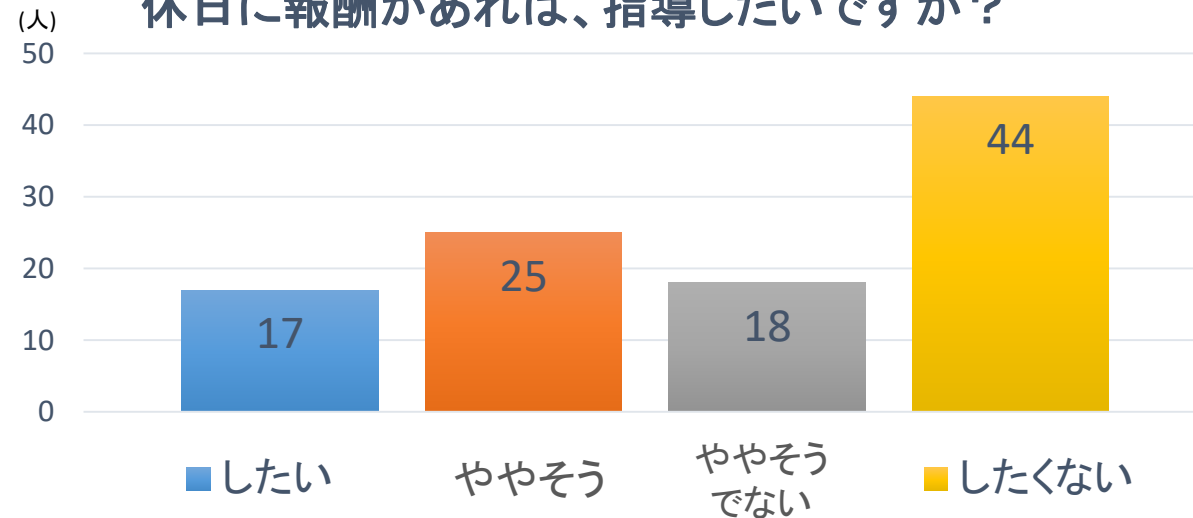


「部活動の指導について」 アンケート調査について 【教員(顧問)】

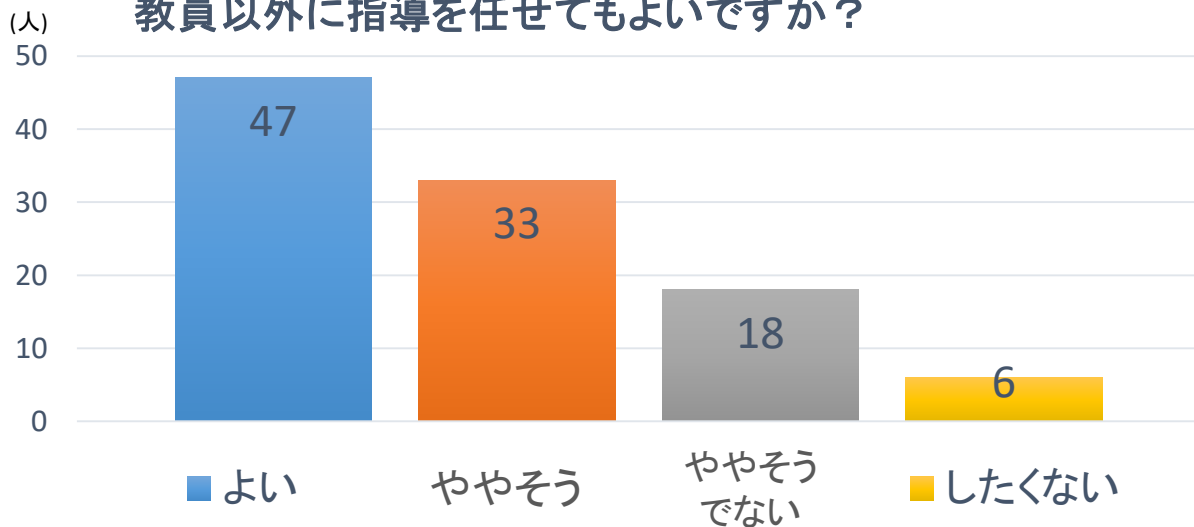
休日の指導は負担ですか？



休日に報酬があれば、指導したいですか？



教員以外に指導を任せてもよいですか？



「部活動の指導について」 アンケート調査について 【教員(顧問)－①】

【部活動の地域移行について、御意見があれば記述してください。】

- ・地域の活動で問題が起こったら、それを解決するのは学校なのか地域なのかわからない。土日に出勤する必要がなくなるため大変ありがたいが、地域の活動で問題がおこり、それをまた学校で解決となると、余計問題がややこしくなりかえって負担が大きくなると思う。
- ・地域移行が進むことは良いことだと思うが、部活がしたい教員もいると思うので、その間口は残しておいてもらいたい。
- ・平日と休日で異なる体制になると、連携という負担が重くのしかかることが予想される。また、地域移行する場合でも複数体制にしなければ指導者の負担が大きいと感じる。
- ・何かケガやトラブルが起きた時の対応や責任をどこが持つことになるかが重要だと思う。外部委託になっても、学校側に責任がくるなら現状の形で続けるのも仕方ないと思う。場所の提供だけで、クラブチームのような活動になるなら良いと思う。
- ・協力してできる体制があればありがたい。指導者の人数が多いほうが目が届きやすく、また日程調整もしやすい。しかし、現状ですべてを地域以降は課題が多いと感じる。また、例えば現在不登校の生徒が、「交流のある先生の部活に行ってみようかな。」、「部活だけでも登校してみようかな」と言っているが、それはすべて移行してしまえばできないことであり、どの学校でも起こり得ることである。まずは、協力して部活指導に当たれる部活指導員をすべての部活に配置し、様子を見るのがよいと考える。これができなければ(人員確保も含めて)地域移行はできない。
- ・地域移行は良いと思うが、平日に教員、休日に部活指導員(教員とは別の人)がすると、方針なども変わり、生徒の取り組み方や戦術面でも混乱させることになる。また、部活動を通しての生活指導によって生徒がよくなることもある。教員の働き方改革にはなるが、生徒にとってどうなのか、保護者の思いも考えた上で、適切な判断をしてほしい。教員の思いだけで動くべきではない。
- ・地域移行ができればありがたいが、本市の現状では、来年度から地域移行はかなり厳しい。地域で活動できる体制づくりをお願いしたい。
- ・休日の報酬が1,600円とすると、これが今まで教員に支払われてこなかった手当である。この機会に「子どものため」ではなく「子どものためになることを見据えた教員の働き方の向上のため」地域移行を積極的、かつ速やかに進めてほしい。

「部活動の指導について」 アンケート調査について 【教員(顧問)－②】

【部活動の地域移行について、御意見があれば記述してください。】

- ・平日は生徒の様子を見るためにも教員が指導を行い、休日は地域の方などの部活動指導員に任せられるスタイルになるとありがたい。
- ・地域移行が可能であればよいが、人材確保の問題を解決するのは難しいと思う。また、地域移行した場合に生徒指導の問題などまで任せられないと思うので、結局教員も部活動に参加しなければいけなくなるだろうと思う。
- ・教員の負担が大きい事から、顧問を引き受けるかどうか、来年度には選択できるようにしてもらいたい。外部指導員に任せる事で様々課題が出てくる事が予想される。部活動ではなく、地域での習い事のように完全に切り離して運営していただきたい。
- ・再任用の先生など、教育現場での経験があることが条件でないと生徒指導上の問題がたくさん出ると思い、不安です。
- ・教員の負担が減るので大歓迎だが、体罰問題やハラスメント問題が心配。指導員の数が足りるのかも気になる。
- ・完全に切り離さない限り、負担は軽減されないと思う。学校の部活動への参加は全くの自由であるとし、体力向上のみを目的として勤務時間内に終わるものとし、大会に出るとかいった目標を持つ活動はすべて社会体育に任せる。社会体育の指導者は、それで生活できるだけの報酬も準備されるべきである。
- ・早急に実現し、部活動から教員を解放して欲しい。部活動を担当するかどうかは、希望選択制にして欲しい。
- ・完全に地域移行を希望する。そのためにまず中体連の大会をなくす。卓球であれば市の協会の大会は年3回、県の大会は、月1回。近畿、全国へ繋がる大会も多い。指導力のある先生は、勤務時間を終えてから地域貢献する。生徒は4時に帰宅して勉強、食事を済ませて19時から21時まで活動する。
- ・部活指導員に来ていただいているが助かる反面、難しさがあるのが現実です。指導だけに特化して生徒に向き合わず進める恐れがある。競技指導だけでいいのなら、クラブチームでいいのかなと思う。
- ・時間外の労働にかなりの負担がある。部活動に入らず、クラブに入る生徒も増えてきているし、思い切って舵を切っていただきたい。
- ・ニーズがきちんとあっていれば、早く地域移行にしてもらいたい。外部指導者と部活動をやりたい教員で部活動を行っていく体制を作ってほしい。

「部活動の指導について」 アンケート調査について 【教員(顧問)－③】

【部活動の地域移行について、御意見があれば記述してください。】

- ・水泳部の顧問です。3人態勢で指導に努めているが、他の先生は「忙しい」とのことで、ほぼ一人で指導についている。お願いしたときも断られることが多い。断られることがとてもしんどい。地域移行ですが、大勢の人数で指導ができるのは賛成。完全に委託ではなく、合同で指導する期間を設けてほしい。
- ・移行していくにあたって、指導者の資質(採用基準)、練習環境、使用施設などどのように調整・整備していくかなど、具体的な案が提示されていないので不安です。
- ・吹奏楽部の顧問をしてる。県北部は一般団体も吹奏楽・オーケストラといった器楽演奏の土壌が育っていない地域で、どのように地域へ移行していくのか、あまりイメージがもてない。音楽文化の衰退に繋がらない形で、生涯学習的に音楽を楽しめるような地域移行の在り方であればよい。
- ・ぜひとも迅速に、積極的に地域移行してほしい。確かに、部活動指導による「やりがい」は否定しません。生徒が勝利すれば嬉しく、感動します。しかし、多大な業務負担であることは確かです。部活動をやりたい先生はいると思います。それも否定はしません。ぜひ、やりがいだけで「やらされている」教員、大量の時間外労働のしんどさを抱える教員を救うためにも、地域移行をすすめてほしいと強く願います。平日は、生徒と全力で向き合います。せめて休日は、自分の大切な家族のために時間を使わせてほしい。
- ・部活動の目的によって、地域移行のメリット、デメリットが変わるかなと思います。選手育成のためには専門家にお願いしてやってもらう方が未来の選手の能力向上に大きく貢献できると思う。ただ、生徒指導的な面では教員が行う方が良いと思う。人間関係の面や、学校生活と絡めての指導などをしやすいのは教員の方かと。しかし、専門外の教員がその部活動を見ることに対して不満や負担が多いことは明らかなので、適材適所をしていくのは必要かと思う。あとは、もし地域移行を行なったときに、誰が中体連の大会を仕切るのか。そこも教員がやってたら結局負担は教員に残るような気がします。
- ・第一は生徒にとって不利益がないような形で行ってほしい。その上で教員の負担軽減が図れるシステムであってほしい。
- ・バスケットはクラブチームに移動している子が多い。このままだと部活には強い子が残らない。クラブチームに入らないとやっていけない流れになりそうです。

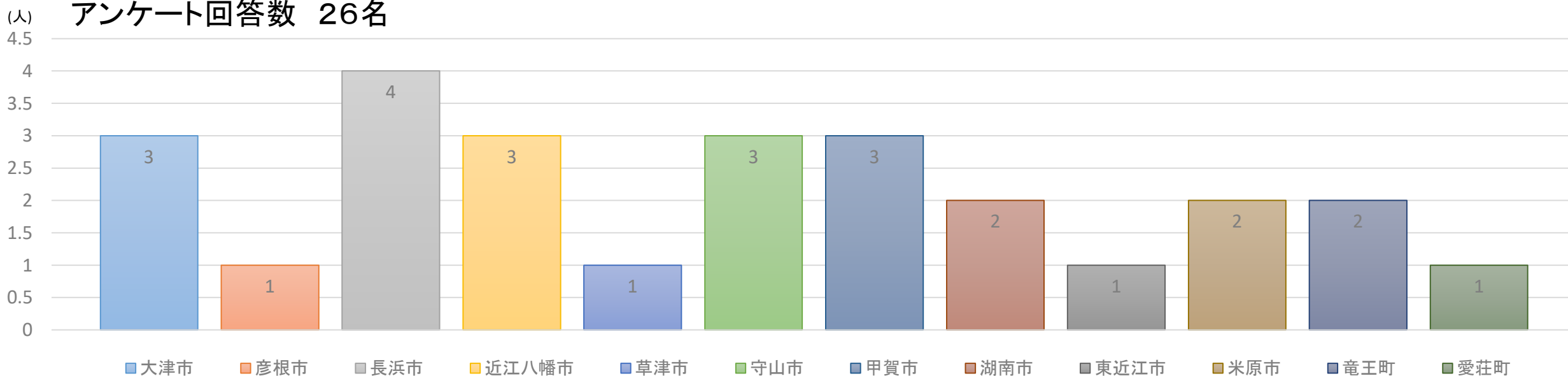
「部活動の指導について」 アンケート調査について 【部活動指導員】

協力依頼校 県立 1校 市町立 42校

市町名	学校数	中学校名
大津市	4校	日吉中・皇子山中・栗津中・瀬田北中
彦根市	3校	中央中・南中・鳥居本中
長浜市	3校	南中(文化)・びわ中・西浅井中
近江八幡市	3校	八幡中・八幡東中・八幡西中
草津市	3校	草津中・高穂中・老上中
守山市	3校	守山中(文化)・守山南中・明富中
栗東市	3校	栗東中・栗東西中・葉山中
甲賀市	3校	水口中・甲賀中・信楽中
野洲市	2校	野洲中・野洲北中
湖南市	2校	石部中(文化)・甲西中

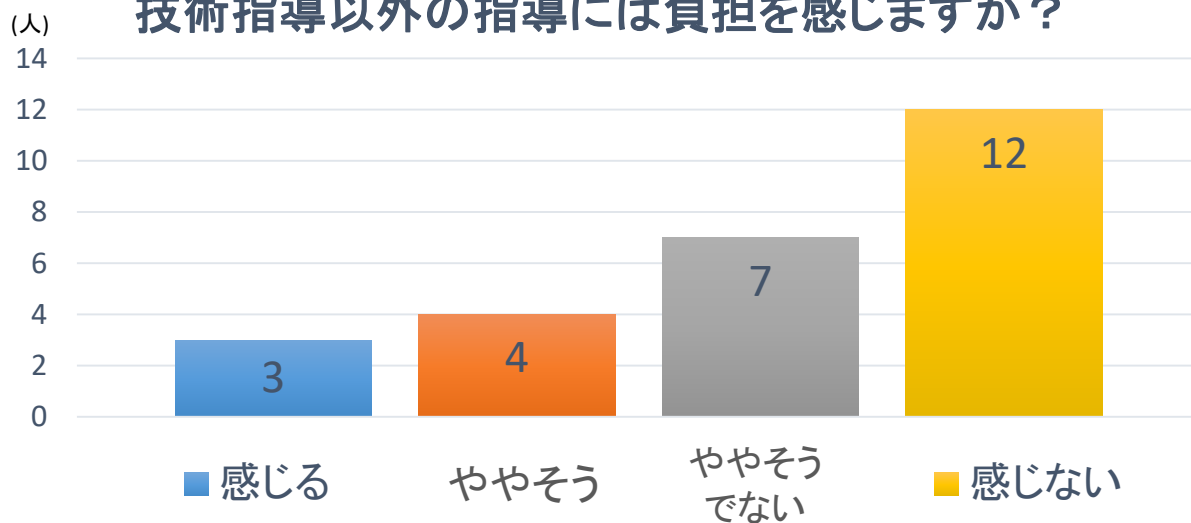
市町名	学校数	中学校名
高島市	2校	安曇川中・湖西中
東近江市	3校	朝桜中・能登川中・聖徳中
米原市	2校	柏原中(文化)・大東中
日野町	1校	日野中
竜王町	1校	竜王中
愛荘町	1校	愛知中
豊郷町	1校	豊日中
甲良町	1校	甲良中
多賀町	1校	多賀中
県立	1校	水口東中

アンケート回答数 26名

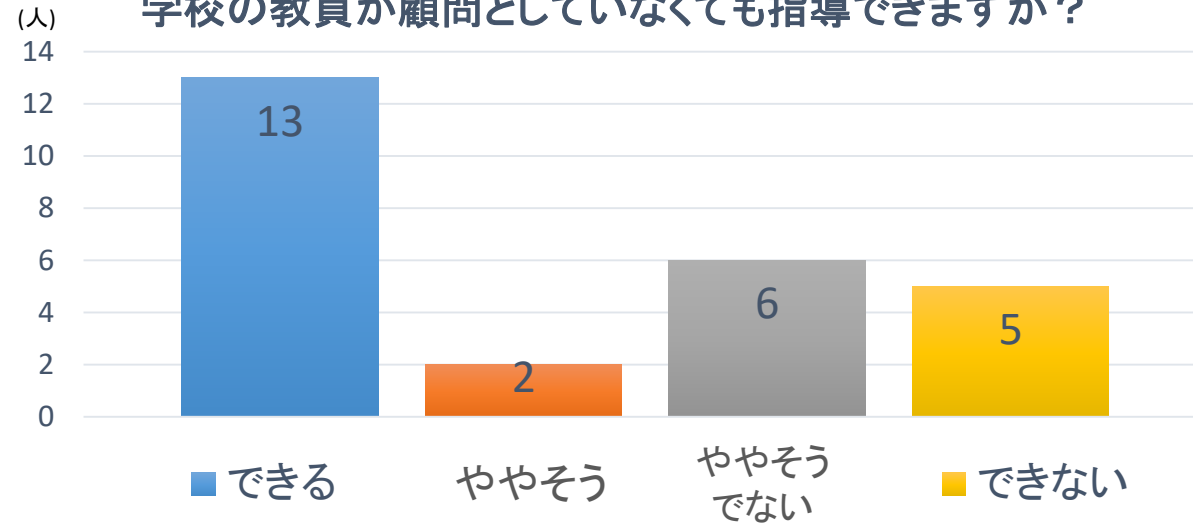


「部活動の指導について」 アンケート調査について 【部活動指導員】

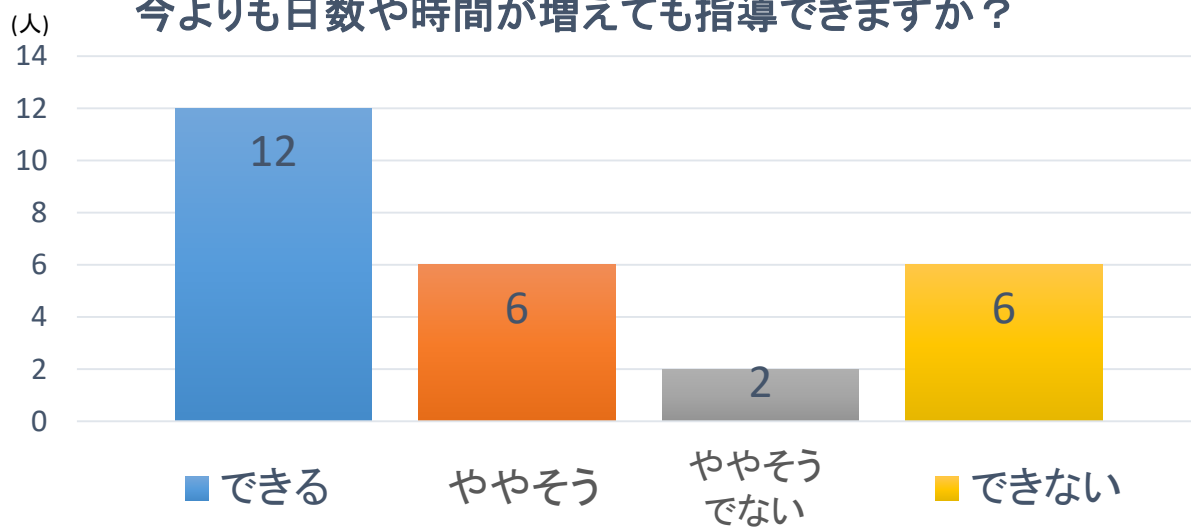
技術指導以外の指導には負担を感じますか？



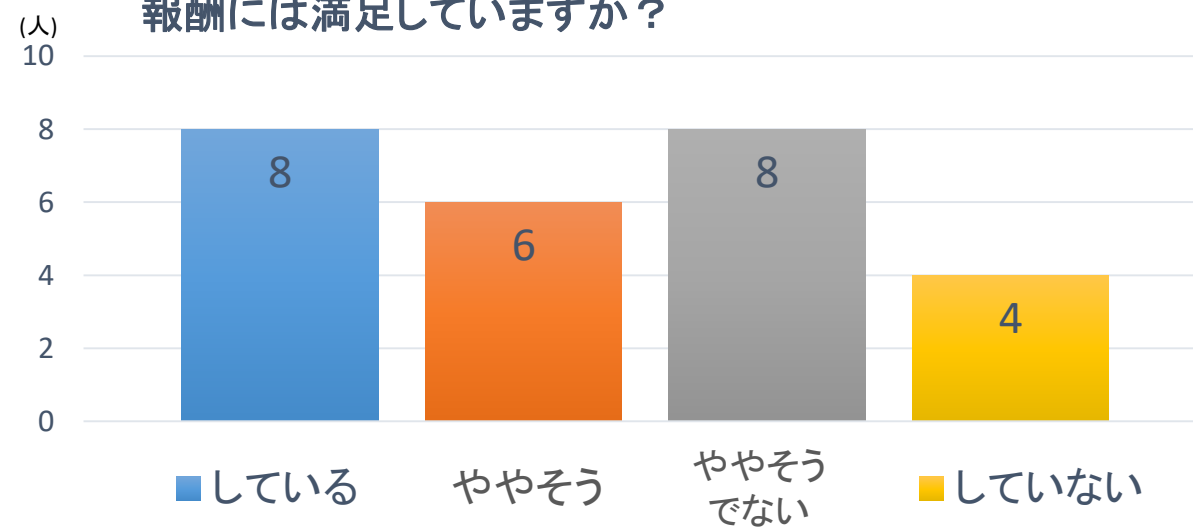
学校の教員が顧問としていなくても指導できますか？



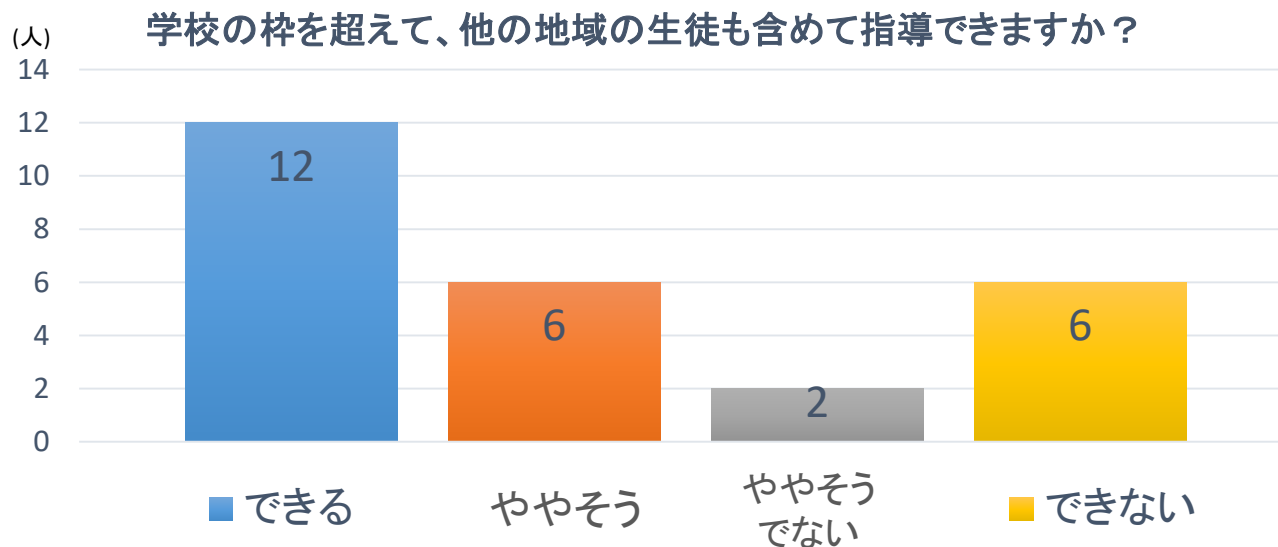
今よりも日数や時間が増えても指導できますか？



報酬には満足していますか？



「部活動の指導について」 アンケート調査について 【部活動指導員－①】



【部活動の地域移行について、御意見があれば記述してください。】

- ・これからも保護者の方々の協力は不可欠です。お子さんの為にもよろしくお願ひしたい。
- ・技術指導とチーム作りは別物です。学校の生徒指導と部活動は切り離せるかが課題である。
- ・別に仕事をしている指導員としては、平日の指導が難しい。
- ・ぜひ地域移行を進めるべきと思いますが、生徒の学校状況把握など、情報共有方法で課題がありそうである。
- ・部活動の教育的意義を認めるなら、現状通り行うべきである。地域へ移行するなら完全に学校と切り離すべきである。
- ・現在は4年という任期という事ですが、4年たった頃から軌道にのると思うので、もう少し任期期間を延ばしてほしい。
- ・地域ごとの特徴、特性を大事に基本的なことを指導し、生徒の自主性を高める事が大事である。指導している側からも勉強になる。

「部活動の指導について」 アンケート調査について 【部活動指導員－②】

【部活動の地域移行について、御意見があれば記述してください。】

- ・昨年度末に退職しました。自分が顧問をしていた部活なので、生徒のことも知っているし、比較的苦勞なく楽しく活動させていただいている。現役の頃はとにかく時間が足りず、学校を出るのが9時10時ということがよくあった。体も心も壊さずによく定年まで働くことができたと思う。部活動の地域移行、課題はたくさんあると思うが、進めていただきたい。
- ・講師と部活指導員を掛け持ちしている場合、かなり負担である。地域移行にするのであれば、平日も全て地域に移行すべきである。完全に部活動、学校と切り離すほうが良い。(生徒指導面をどうするかも問題)
- ・地域のボランティアに頼るのではなく、しっかりとしたシステムの構築が必要。将来平日も移行するなら、指導者が生活できる報酬が必要。ただ、私自身学校の中でやってきたので、普段学校生活をともに過ごしている教員にもっと頑張ってもらいたい。
- ・部活動の指導は学校生活において大変意味があることだと思う。しかし、その指導がほとんど教員のボランティア精神のもとで行われていることが問題だと思う。放課後は毎日2時間の部活指導、土日に一日拘束されることもあります。本来の教師の仕事である教材研究は部活が終わってから、土日に行く。かといって、学校の教育方針との擦り合わせが難しいため、地域に移行するには不安がある。
- ・今後、部活を指導する先生も減少しており、地域密着は必要ではあるが、部活動である以上技術面以外の指導も必要ではある。野球が好きで先生を目指した方が長浜市には多く、そういった方達の居場所が無くなるとは、なおさら先生を目指す子供達が減少してしまう危険性もある。お互いを尊重した型で先生と指導員が一体となり活動する事が望ましい。
- ・現場の声を聞いてほしい。塾のように、外部顧問の言うことは聞くけど、学校の教師の言うことは聞かないということになりかねない。だから教師は部活動の様子を、外部顧問は学校の様子をお互いが見に行くなどして、共通理解をする必要があると思う。

令和4年度地域運動部活動推進事業

休日の部活動の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書

自治体名	彦根市教育委員会 担当課：学校教育課 電話番号：0749-24-7973
------	---

1. 事業の概要について

1.1 基本情報（令和4年度4月末時点）

① 中学校数	7校	② 生徒数	3013人	③ 部活動数	69部活
--------	----	-------	-------	--------	------

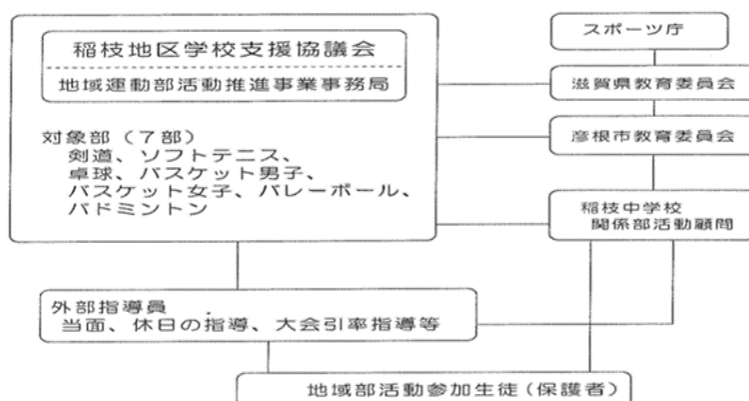
1.2 地域における現状・課題

- ・関係者全員(生徒、保護者、教員、地域)の部活動の固定概念からの脱却。
- ・運営主体となりうる団体が無い。(事故や問題行動の責任を負い切れない)
- ・すべての競技の指導者がそろわない。
- ・学校内において、学校部活動と地域スポーツ活動が混在し、混乱を招く。

1.3 実践研究における取組目標

- ・1校で7つの部活動において実施。土日、祝日を含めて、約40日実施予定。

1.4 実践研究の運営体制（令和4年度稲枝中学校地域運動部活動組織図）



2. 地域連携や地域移行の推進に向けた体制整備の取組について

稲枝地区学校支援協議会の中に、地域運動部活動事務局を位置づけて取り組んできた。稲枝地区学校支援協議会とは中学校区にある3保育園、1幼稚園、3小学校、1中学校の8校園に対する学校支援ボランティア団体として2008年に発足して活動してきている団体である。今回部活動の地域移行で、地域指導者（ボランティア）の発掘として、広報などで広く地域住民に呼びかけるなどして協力していただいている。

3. 実践研究校における取組について

3.1 実践研究校情報

① 実践研究校数	域内全7中学校のうち、1校が実践研究に参加
② 実践研究に取り組んだ部活動数	7部活
③ 種目	バスケットボール男、バスケットボール女、バレーボール、ソフトテニス、剣道、卓球、バドミントン

《主な取組例（1）》…彦根市立稲枝中学校

① 運営主体	稲枝地区学校支援協議会		
② 種目	バスケットボール男	④ 参加者数	19人
④ 活動日	土曜日	⑤ 活動場所	彦根市立稲枝中学校体育館
⑦ 指導者人数	1人	⑧ 謝金単価	1人あたり1,600円/時間
⑨ 指導者属性	教職員（兼職兼業）		
⑩ 参加会費の有無・金額	徴収あり（1人あたり：12,000円/年額）		

《主な取組例（２）》…彦根市立稲枝中学校

① 運営主体	稲枝地区学校支援協議会		
② 種目	卓球	④ 参加者数	41人
④ 活動日	土曜日	⑤ 活動場所	彦根市立稲枝中学校体育館
⑦ 指導者人数	2人	⑧ 謝金単価	1人あたり1,600円/時間
⑨ 指導者属性	スポーツ少年団指導者		
⑩ 参加会費の有無・金額	徴収あり（1人あたり：12,000円/年額）		

3.2 参加者の声（生徒、保護者、教師、指導者等）

- ・ 実践研究において参加者アンケート等を実施した場合、アンケート結果概要を文章およびグラフ等で記載すること。
- ・ また、成果報告書の提出の際に、アンケートの集計結果を別添資料として添付すること。

3.3 各実践研究校での取組を通じて挙げた課題や解決方法、取組において特に工夫した点

- ・ 地域指導者の人材確保が一番の課題である。地域広報誌などにより広く求めているが、引き受けてくれる人材がない。
- ・ 国からの支援があっても、指導者に支払う謝金が足りない。1中学校区の地域移行実践研究を行っているために、PTAからの補助や同窓会からの補助を受けて補うことができた。

4. 実践研究の成果と今後の課題

4.1 実践研究での検証から得た成果

- ・ 令和3年度から5部活で実践研究をスタートし、令和4年度には合計7部活動が地域移行することができた。令和5年度は、8部活動で地域移行をする計画をしており、これにより該当中学校のすべての運動部活動の地域移行が完了する。

4.2 地域移行における今後の課題と対応

- ・ 下記のテーマ（地域任意）について、地域移行の今後の方策、来年度以降のロードマップ等を記載すること。

<p>【関係者との連絡調整・連携体制の構築方策】</p> <p>従前から、地域指導者と学校顧問と連携して部活動指導が行われていたため、連絡調整など大きな混乱はなかった。</p>	<p>【受け皿団体の確保方策】</p> <p>稲枝中学校区においては、学校支援協議会を受け皿団体として、取り組んだが、他中学校区では指導者などの問題や、コーディネーター的な役割を行う人材が無いため、他の方法を模索する必要がある。</p>
<p>【指導者の確保方策】</p> <p>地域指導者の発掘として、広報などで呼びかけを行っているが、地域指導者の高齢化などもあり、今後持続可能な指導者の発掘となると、地域にある大学など連携して若者の指導者の発掘が必要になると思われる。</p>	<p>【困窮世帯への支援方策】</p> <p>要保護世帯、準要保護世帯の家庭に対する支援として、教育委員会とも連携しながら進めていく必要がある。</p>
<p>【地域移行の自走化に向けた方策】</p> <p>いくつかあるクラブ活動から自分に合ったレベルや会費などで、選択できるようになるとよい。</p>	<p>【地域特有の課題への対応策】</p> <p>これまでの学校部活動においては、問題発生時は、学校や教育委員会などが対応していたが、地域移行することにより、相談窓口を運営主体に求める必要がある。</p>

令和4年度

稲枝中学校地域運動部活動 推進事業活動報告



彦根市立稲枝中学校
稲枝地区学校支援協議会
稲枝中学校地域運動部活動推進事業

目 次

		page
1	あいさつ 稲枝中学校校長 北村 功	1
2	稲枝中学校地域運動部活動推進事業規約	2～3
3	令和4年度稲枝中学校地域運動部活動組織図	4
4	部活動・地域部活動加入部人数、指導者一覧表	5～6
5	活動報告	
	① 各月別活動状況（R4.4月～R5.2月）	7～9
	② 各部代表地域指導者の感想	10～12
	③ 各部代表部員の感想	13～15
	④ 指導者のアンケート結果	16
	⑤ 教職員のアンケート結果	17
	⑥ 生徒アンケート結果	18
	⑦ 保護者のアンケート結果	19
6	今年度の反省 事務局 木村 輝男	20
7	資料	21～

地域運動部活動2年目をおえて

稲枝中学校 校長 北村 功

「部活」(学校部活動)は、中学校の生徒のスポーツ環境基盤として全国津々浦々にまで広がり多くの生徒たちの生活の一部となっていました、それは単なるスポーツを行う機会ではなく、生徒指導の側面や生徒の自主的・自発的な参加による学習意欲の向上や責任感・連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成の機会を全てのご家庭に保障してきました。そのことが我が国のスポーツ界の様々な種目における競技力の基盤を支えてきたことも事実です。しかし、次世代エリート養成やホーム地域での競技人口拡大に貢献するユースクラブやスクール事業も成長しています。「スポーツクラブ産業」と呼ぶべきスポーツクラブの存在です。保護者・子どもの価値観も多様化する中で学校部活動ではなく、スポーツクラブに籍を置く生徒も多くみられます。その反面、様々な学校で廃部を余儀なくされた場面もありました。多くの生徒がスポーツに親しむ基盤の危機でもあると感じています。そのような状況に加えて、学校現場では教員の過剰労働を解消し、教員に必要な新しい資質・能力を研鑽する余裕を生み出す必要性や、少子化の進行による学校単位での部活動の存続の難しさが顕著に表れてきました。学校部活動はその方向性を大きく変える時期であることは言うまでもありません。本校ではそれらの大きな課題を改善のために地域運動部活動の維持に向けて、本年度は受益者負担など保護者にもご理解・ご協力をいただき、地域運動部活動の2年目を終えようとしています。全国の自治体やスポーツ協会また多くの報道機関からも訪問や取材を受け注目も浴びました。しかし、指導者の確保や生徒数の減少に伴ってどのように活動を保証するのか、また、資金についてもまだまだ課題は多いです。たちまち助成金なしでは成立は難しく持続発展的に運営していくために保護者の理解と、国や自治体からの助成金も不可欠です。いま改革が進まなければ子どもにしわ寄せが来ます。本校はもとより、多くの自治体や学校が歩みを止めずに地域運動部活動の基盤を作り持続発展的な取り組みとなり、笑顔で部活に励む子どもの姿がみられることを願っています。

稲枝中学校地域運動部活動推進事業規約

(名称および事務局)

第1条 この推進事業は稲枝中学校地域運動部活動推進事業（以下「推進事業」と略す。）と称し、事務局を稲枝地区学校支援協議会（彦根市立稲枝中学校）内に置く。

(目的)

第2条 推進事業は、この事業に加入する生徒の体力や技能の向上を目指し、自主的な取り組みを通して、多様な学びの場とするとともに、地域交流、地域活動の推進を目的とする。

(事業)

第3条 推進事業は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- 2 事業全体の企画・運営・調査研究
- 3 学校と地域が協同・融合した部活動の具体的な実現の研究
- 4 事業成果の報告

(組織・役員)

第4条 推進事業は、以下をもって組織する。

- 2 稲枝地区学校支援協議会主任コーディネーター
中学校校長、教頭、関係運動部活動顧問
地域運動部活動指導員代表
地域部活動参加保護者代表
中学校同窓会代表
- 3 必要ある場合は、当該部（個人）の代表者を加えることができる。

(会議)

第5条 推進事業の会議（以下「会議」という）は、必要に応じて稲枝地区学校支援協議会主任コーディネーターが招集する。

- 2 会議は、主任コーディネーターが必要と認めた者に参加を依頼することができる。

(事務局)

第6条 推進事業は事業遂行のために事務局を設置する。

- 2 事務局員はこの事業の運営、庶務会計を担当する。

(部員の資格・登録)

第7条 本事業に入会登録するものは、次の要件を備えている者とする。

- 2 稲枝中学校運動部部員で、第2条の目的に賛同し「地域運動部活動参加届」を提出するものとする。
- 3 第8条3の会費を納めた者とする。

4 上記以外の場合は、会議において役員が認めた者

(会計、会計年度)

第8条 本推進事業の会計は委託費、会費、その他の収入によって支弁する。

2 会計年度は、4月19日から翌年3月20日までとし、毎年彦根市教育委員会ならびに地域部活動加入保護者に報告をする。

3 会費は年間3回(1、2、3学期)に分けて徴収するものとする。

4 会費は、一人あたり月額1,000円とし3年生は当年7月分まで、1、2年生は入部月から翌年3月分までとする。

5 当地域部活動を中途退部した場合、会費は退部した翌月分から返金する。

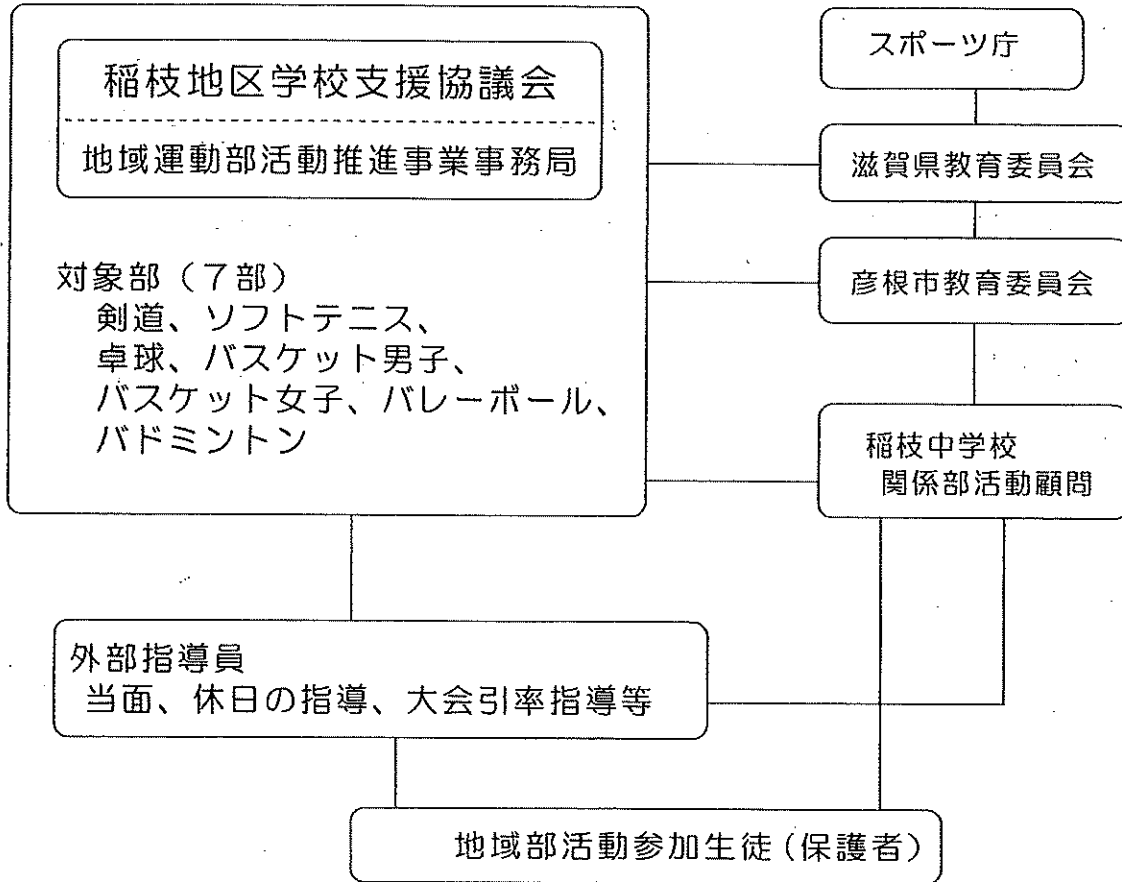
(その他)

第9条 この規約に定めるもの以外に、本推進事業の運営に必要な事項は、主任コーディネーターが別に定める。

付 則

- ・この規約は、令和3年8月16日から施行する。
- ・令和4年3月19日 改訂する。
- ・令和4年8月7日 改訂する。

令和4年度稲枝中学校地域運動部活動組織図



「地域運動部活動推進事業の委託内容」

1. 事業の目的

- 持続可能な部活動と学校の働き方改革の実現
- 生徒にとって望ましい「地域スポーツ活動の実現」

2. 業務内容

- ・財務管理、収支報告（指導者の雇用関係、活動費の徴収や分配他）
- ・指導者の確保と研修の実施
- ・生徒の名簿管理と個人情報適切な管理
- ・生徒の安全確保と事故等への対応（生徒の保険加入手続き等）
- ・活動時間、場所の割り振り、調整（活動計画作成、活動場所の確保等）
- ・指導者、保護者、学校との連絡調整

3. 指導者の役割

- ・週休日および休日等の部活動の指導
- ・週休日および休日等の練習試合や大会参加引率、指導
- ・活動中の事故やトラブルの対応
- ・保護者、運営主体、学校（顧問）との連携

4. 学校顧問

生徒の所属状況の把握、指導者との連携のほか、場合により週休日および休日の大会引率、指導を行う。

令和4年度 地域運動部指導者一覧表

部名	指導者名	備考	元教員	稲枝在住	稲枝中 OB、OG
バスケットボール男子	A	教員（兼職兼業） 稲枝中職員、顧問			
バスケットボール女子	B		○（中学校）		
	C		○（高校）	○	○
卓球	D			○	○
	E	保護者		○	○
ソフトテニス	F		○（高校）	○	
	G			○	○
剣道	H	少指導者		○	○
	I	保護者	○	○	
バドミントン	J	元稲枝中教員	○		
バレーボール	K	元稲枝中教員	○（中学校）	○	○
	L	元スポ少指導者		○	○
事務局	木村 輝男	元稲枝中教員	○	○	○

部活動・地域クラブ加入部別人数

1 全校生徒数

2022.5.1現在

学年	1年		2年		3年		男子	女子
	男	女	男	女	男	女		
全生徒数	41	40	43	46	56	48	140	134
	81		89		104		274	

2 運動部活・地域部活加入生徒

運動部	部名	1年				2年				3年				男子			女子		
		部活動		地域部活		部活動		地域部活		部活動		地域部活		部活	地域	差	部活	地域	差
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						
1	ソフトテニス		8		8		5		5		6		6				19	19	0
2	卓球	4	10	4	9	8	13	7	13	5	4	4	4	17	15	2	27	26	1
3	バスケット	5	3	5	3	5	9	5	7	9	5	9	5	19	19	0	17	15	2
4	剣道	6		6		1	3	1	3	4		4		11	11	0	3	3	0
5	バドミントン	11		9		15		14		15		14		41	37	4	0	0	0
6	バレーボール		8		8		4		4		8		7	0			20	19	1
																6			4
7	軟式野球	9	2			2				3				14	2				
	合計	35	31			31	34			36	23			102			86		
		66				65				59				188					

*男女10名が地域部活動未加入

地域部活動 月別活動実績表 (R4.4~R5.3月)

△:午前 ▼:午後 ○:1日(試合等) BB:バスケ男、BG:バスケ女、V:バレー、BD:バドミントン、T:卓球、剣:剣道、ST:ソフトテニス

3月									
月日	曜	地域部活						会議他	
部名		BB	BG	V	BD	T	ST	剣	
3/27	日	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	R4年度第1回指導者会議

6月									
月日	曜	地域部活						会議他	
部名		BB	BG	V	BD	T	ST	剣	
6/4	土	△	○	△		△	△		報道関係対応
6/5	日				▼			△	
6/11	土	▼	△	△		△	△	△	
6/12	日			▼	△				
6/16	木								委託契約打合せ市教委
6/18	土	○	△	△	△	△	▼	△	
6/19	日						△	△	
6/21	火								テスト前休み
6/24	金								県教委来庁協議
6/26	日								
6/28	火								期末テスト①
6/29	水								期末テスト②
合計		3	3	4	3	3	4	4	

4月									
月日	曜	地域部活						会議他	
部名		BB	BG	V	BD	T	ST	剣	
4/8	金								1学期始業式
4/11	月								入学式
4/14	木								市教委と打合せ
4/19	火	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	保護者説明会19:00~ 会計年度始(~3/20)
4/20	水								地域部活動開始!
4/22	金								県教委との協議
4/23	土	△	▼		▼	△	▼	△	
4/24	日			▼				▼	
4/29	祝	▼	△		△	△		△	
4/30	土	○	○	△	▼	△		△	
合計		3	3	2	3	3	2	3	

7月									
月日	曜	地域部活						会議他	
部名		BB	BG	V	BD	T	ST	剣	
7/2	土	○	▼		△	△	△	△	
7/3	日	○	▼	▼					
7/4	月								県教委協議(大津)
7/9	土	○	▼		△	△		△	
7/10	日		▼	▼					
7/16	土	○	△	△	▼	△	○	△	
7/17	日	▼			△		○	△	
7/18	祝		▼			△			
7/20	水								1学期終業
7/21	木	○			○			△	夏季ブロック大会 夏休み
7/22	金	○			○	○	△		夏季ブロック大会
7/23	土	△		△	△				
7/24	日				▼		△	△	
7/27	水	○			○				夏季総体県大会
7/28	木				○	○	△		夏季総体県大会
7/29	金								夏季総体県大会
7/30	土	△	▼		▼	△		△	
7/31	日								
合計		6	11	3	7	10	6	9	

5月									
月日	曜	地域部活						会議他	
部名		BB	BG	V	BD	T	ST	剣	
5/1	日	○	○				△		
5/2	月								部活MT(1年入部)
5/3	祝	○	▼	△	○	△	△	△	
5/4	祝			▼	△	△	△		
5/5	祝			△					
5/6	金								1年保護者参加説明会
5/7	土	△	▼			△	△		
5/8	日				△		△	△	
5/13	金								京都新聞取材
5/14	土	△	▼	▼	△	△	△		京都新聞取材
5/15	日							△	
5/19	木		○			○			春季総体
5/20	金		○			△		△	春季総体
5/27	金								中間テスト②
5/28	土	▼	△		▼	△	△	△	
5/29	日			▼					
合計		4	6	5	5	7	7	5	

8月									
月日	曜	地域部活							会議他
部名		BB	BG	V	BD	T	ST	剣	
8/7	日		△		▼				第1回推進会議
8/11	祝						▼		
8/20	土	△	▼	△	△	△	○		
8/21	日			△				△	
8/25	木								早稲田大学研究員来校 (校長、事務局)
8/26	金								アンケート調査実施
8/27	土	△	△	△	△	△		△	
8/28	日			△					
8/29	月								2学期始業
合計		2	3	4	3	2	2	2	

10月									
月日	曜	地域部活							会議他
部名		BB	BG	V	BD	T	ST	剣	
10/1	土	▼	△		▼	△	△	△	
10/2	日			△					
10/7	金								ふれあい教育対談
10/8	土	○	○		△	○	△	△	
10/9	日		▼		▼		△	△	
10/10	祝	▼		▼		△			
10/14	金		○			○	○	○	秋季総体
10/15	土	○	○			○			
10/21	金								12年中間テスト②
10/22	土	△	▼	△	▼	△		△	
10/23	日			▼	△				
10/29	土		△		△	△	△		
10/30	日			△			△		
合計		5	7	5	5	7	6	5	

9月									
月日	曜	地域部活							会議他
部名		BB	BG	V	BD	T	ST	剣	
9/3	土	○	○			△	○	△	市民大会他
9/4	日	○	○	△	△				市民大会他
9/10	土	△	△	△	○	△	△	△	
9/11	日			▼			△		
9/17	土	△	▼		▼	△	△	○	
9/18	日	△				○			
9/23	祝		○	△		△		△	
9/24	土	▼	▼		△	△	△	△	
9/25	日	○							
合計		7	6	4	4	6	5	5	

11月									
月日	曜	地域部活							会議他
部名		BB	BG	V	BD	T	ST	剣	
11/3	祝	○	△			△		△	
11/5	土	▼	△		△	△	○	△	
11/6	日			△					
11/9	水								福岡県教委視察取材
11/12	土	△	▼		▼	△	△	△	
11/13	日		○				△	○	
11/19	土	△	○	▼	△	△		△	
11/20	日						△		
11/23	祝		▼	△	▼	△			
11/30	水								宮崎県教委視察取材
合計		4	6	3	4	5	4	5	

12月									
月日	曜	地域部活							会議他
部名	BB	BG	V	BD	T	ST	剣		
12/2	金								12年期末テスト②
12/3	土	△	▼	▼	△	○	○		指導者研修会参加
12/4	日		▼				△	△	
12/10	土	○	△		▼	△	△	△	
12/11	日	○		△		△			
12/17	土	○	○			△	△		
12/18	日	○	○	△	△		△	△	赤旗視察取材
12/22	木								期末保護者会④ 群馬県スポ協取材
12/23	金								2学期終業
12/24	土	▼	△	△	△	△			中日新聞取材AM
12/25	日		△				△		
合計		6	7	4	4	5	6	3	

2月										
月日	曜	地域部活							会議他	
部名	BB	BG	V	BD	T	ST	剣			
2/4	土	▼	△		△	○		△		
2/5	日	○	△			○	△			
2/11	祝	▼	▼		▼	△	△	△	第2回推進会議	
2/12	日		▼	▼		○	△	△		
2/17	金									
2/18	土	▼	△	△	△	△	△	△		
2/19	日		○	△						
2/23	祝	天皇誕生日								テスト前休み
2/25	土									
2/26	日									
2/28	火								彦根市との契約満了	
合計		4	6	3	3	5	4	4		

R5.1月									
月日	曜	地域部活							会議他
部名	BB	BG	V	BD	T	ST	剣		
1/7	土	△	▼			△	△	△	
1/8	日		○		△		△		
1/9	祝	△	▼			△			
1/14	土	○	○			△		△	
1/15	日			△	△				
1/20	金								軟式野球部保護者説明会
1/21	土	○	○		▼	△		△	
1/22	日					○			
1/23	月								地域移行準備委(市)
1/28	土	△	▼		△	△	△		
1/29	日			△					
合計		5	6	2	4	6	3	3	

3月										
月日	曜	地域部活							会議他	
部名	BB	BG	V	BD	T	ST	剣			
3/2	木	12年期末テスト②								
3/4	土	○	▼	△		△	△	△		
3/5	日				△	○	△			
3/11	土	△	▼		△	○		△		
3/12	日			▼			△			
3/18	土	○	△	△	△	△	▼	△		
3/19	日									
3/20	月								会計年度終わり	
3/21	祝	○	○	▼		△	△	△		
3/24	金	3学期修了,								
3/25	土	△				△	△		春休み	
3/26	日	○	○	▼	△	○				
合計		6	5	5	4	7	6	4		

指導回数	55	69	44	49	66	55	52	R5.3月末迄
------	----	----	----	----	----	----	----	---------

令和4年度 地域指導者用 部活動（地域部活動）についてのアンケート集約結果

R4.9月実施

1 休日の運動部活動は、何を目的に指導されていますか。（複数回答）

項目	①技術の向上	②楽しみストレスの発散	③活動の継続	④体力づくり
合計	10	1	5	1

2 指導するうえでの課題は何ですか。

- ・学校との連携、教職員の部活動への取り組み方を心配する。
- ・教育的配慮が必要な生徒の課題が分からないので、生徒との人間関係が作りにくい。
- ・指導内容が分断されて生徒が不信感を持つことがある。
- ・天候により左右されること。
- ・生徒のモチベーションの差、体力差（二極化）がある。
- ・出場時間等平等性を考慮する必要がある。
- ・理由をつけて、休んだり見学したりする生徒をどの程度強く指導してよいか。
- ・市内で活動しているクラブとの連携（小・中・高校の枠を超えて活動できるとよい）が必要。
- ・人数が多いので個々に対する指導時間が十分にとれない。
- ・個々にあった指導方法や多くの指導者がいると指導方法が異なるため生徒が混乱することがある。

3 子どもを指導（理解）するうえで、学校との連携が大切ですが、今までの指導経過の中での問題や課題はありますか。

- ・保護者の理解や対応が大切。生徒指導関係の内容が重要。学校との歩調を合わせる取り組みが必要。
- ・配慮が必要な生徒への関わり方を誤ると生徒を傷をつけるので、励まして前向きに活動できるように配慮が必要。
- ・地域部活動の制度ができたのだから、顧問は自分の時間を。
- ・顧問が参加しているので連携はできているが、地域部活動の内容にはなっていないのでは。

4 地域部活動は、次年度以降も各学校に広げて推進する方向ですが、現在の本校の運営方法で謝金、引率等で考えがあれば書きください。

- ・大会等への保護者送迎をお願いしたい。保険加入の導入が必要。
- ・生徒数減少に伴う複数校での地域部活動の実施や通学区の弾力化も必要になってくる。
- ・保護者負担が多いと指導者の質も問われるため、できるだけ負担を少なくなるように。
- ・指導者は引率することなく直接活動場所に行けるように。
- ・対象の部活動が増えても十分な運営費が保証されるように。
- ・保護者の意識の把握と保護者への啓発活動が必要。
- ・生徒の意向も聞きながら練習時間が少しでも長くできるとよい。

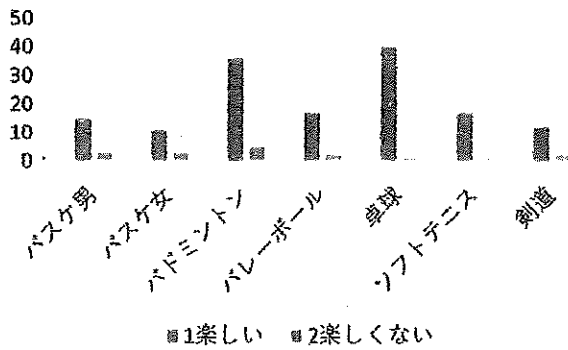
令和4年度 教職員用 部活動/地域部活動についてのアンケート集約

R4.9月実施

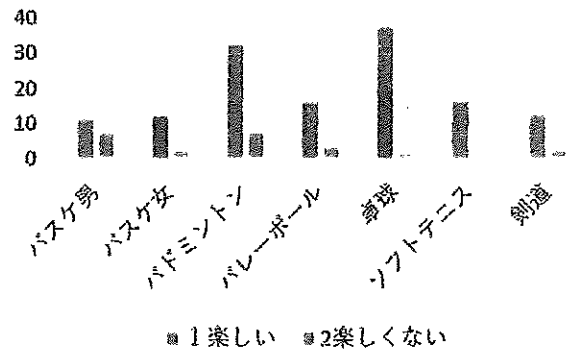
項目	部活名	運動部								文化部		
		ソフトテニス	バスケ男	バスケ女	バレー	卓球	バドミントン	剣道	野球	吹奏楽	美術	
2	休日部活動は、時間的な負担 1 なっている 2 なっていない 3 わからない	1	〇〇			〇		〇〇	〇	〇	〇	
		2		〇	〇	〇	〇		〇	〇		〇〇
		3					〇					
3	精神的な負担 1 なっている 2 なっていない 3 わからない	1				〇		〇	〇	〇		
		2	〇〇	〇	〇	〇	〇	〇〇	〇	〇		〇〇
		3					〇					
4	地域部活は 1 進めるべき 2 やめるべき 3 分からない	1			〇		〇〇	〇		〇		〇
		2										
		3	〇〇	〇		〇〇	〇	〇〇	〇〇	〇	〇	〇
5	地域移行は 1 必要 2 分からない 3 不要	1	〇	〇	〇		〇	〇	〇	〇		〇
		2	〇			〇〇		〇	〇	〇	〇	〇
		3					〇					
6	地域移行をどう思うか。 それはなぜですか。	<p>ST:必要とは思いますが、問題点は多く感じる。 ST:生徒が地域指導者と顧問との板挟みになっている。 B男:教師が負担を感じるなら進めるべき。 B女:現在も土日は進めているから。 V:対外試合などの調整が難しい。 卓球:教師の時間的負担は減るが、生徒にとってよいかどうかは疑問。卓球:専門の顧問が毎年居るとは限らないので、地域部活は必要。 卓球:顧問はいずれ異動があり、継続して指導してもらえる。 バド:指導員との連携や集金等でやるべきことが増えた。 バド:専門的な指導を受けられるから。 剣道:生徒指導と繋がっている部分もあり切り離すのは難しい。専門外の顧問になり、部活がしんどいと思うことがある。 剣道:部活が負担に思う教師がいる以上、進めていく必要がある。 野球:疲れがしっかりと取れ平日に力を注げる。 吹奏:生徒にもよい刺激になるが、顧問との指導方針の違いがあると危険性も。 吹奏:教職員の精神的身体的安定のため、地域に生徒を帰すため。 美:運動部には必要と思うが、文化部には必要性を感じない。</p>										
7	兼職兼業で携わるか。1 はい 2 いいえ	1	〇	〇					〇			
		2	〇		〇	〇	〇〇〇	〇〇	〇	〇	〇	〇〇
8	休日部活動開始前と比べて従事時間は		同じ	同じ	9時間	3時間	4時間	1時間	同じ			
			20分程度			3時間	3時間					
8	精神的負担・時間的負担はどう変わったか。		変化無し	特になし	ブライハートの時間が持て気持ちにゆとりができた。		時間的負担は全くない	負担は減った	専門外の競技なので関わり方など難しい			
			時間的負担は減った。			自分の時間が取れるようになった	時間に縛られず仕事ができるようになった	教材研究に時間を割くことができる。	顧問がいける日にしか休日練習を入れなかった。			
							時間的負担がなくなった					
9	顧問と地域指導者の連携は図れているか。また、課題は。		特になし	体育館調整が難しい。	平日にできる。事務的なことが切り離せない。	定期的に電話で行う。	連絡をメールで取り合っている。	目標と約束事の共有、月予定の確認、練習の様子の共有	外部指導者にどこまで預けてよいか分からない。			
			よい指導者に恵まれている。			細かい指導方法の違いがあれば課題		指導方針の統一と細やかな連絡	9月から休日部活を指導者優先で。			
							細かく相談している。					

生徒用 部活動についてのアンケート集約結果

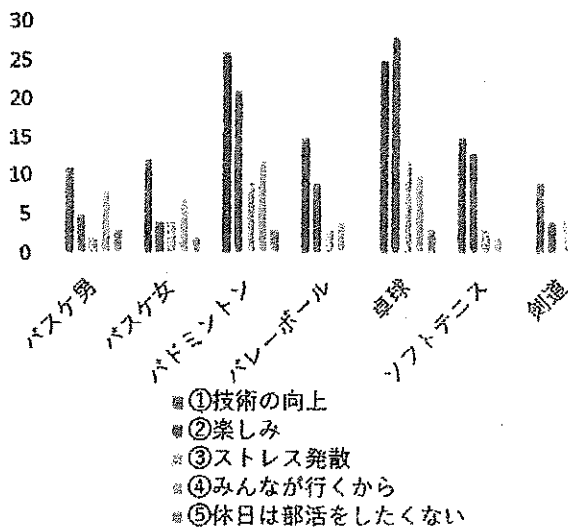
1. 平日の部活動



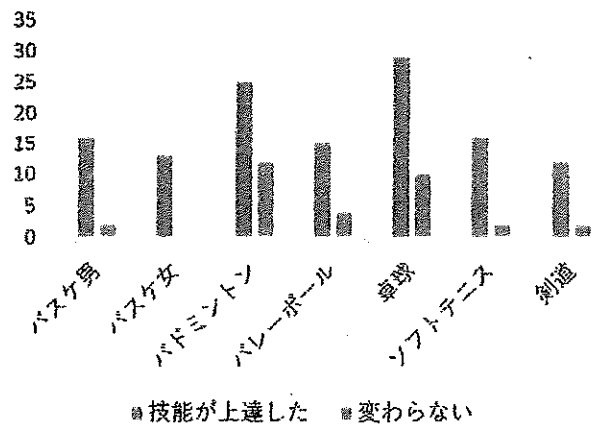
2. 休日の部活動



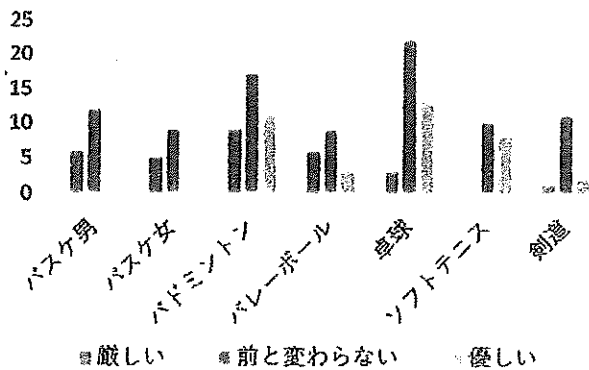
3. 休日の参加目的



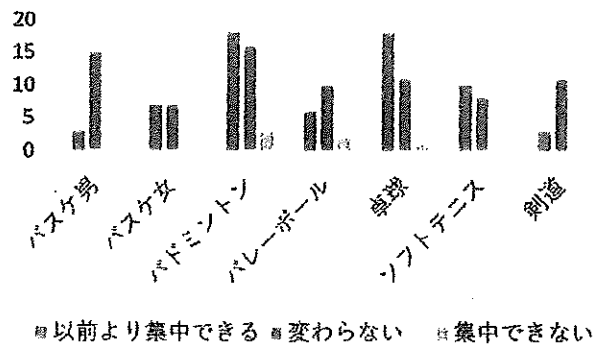
4. 技術の向上



5. 休日の指導は

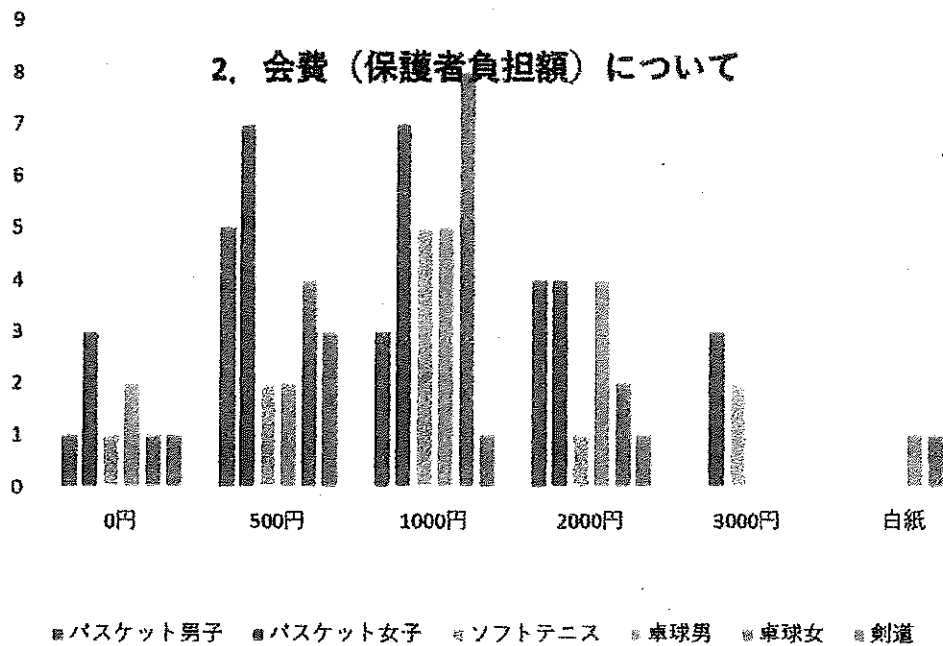
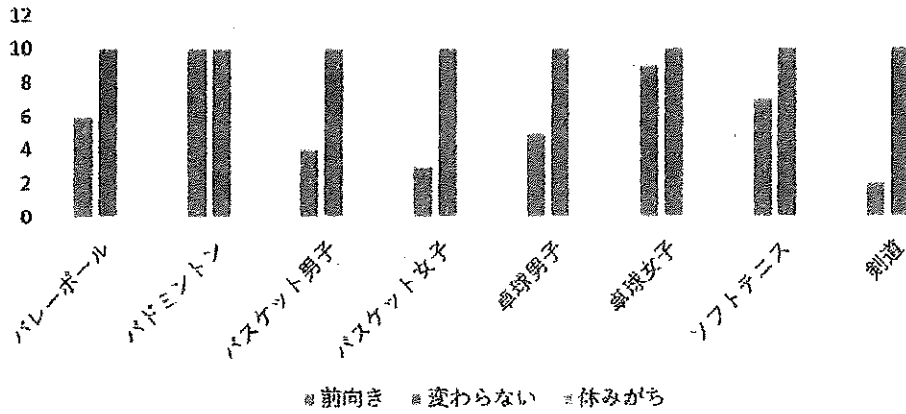


休日の部活は

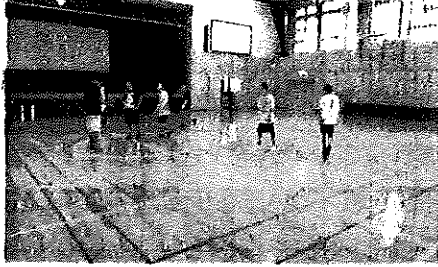


保護者用 アンケート集約（抜粋）

1. 地域運動部活動になる前と比較して



指導者の感想・反省



男子バスケットボール部 指導者 A

地域運動部活動推進事業の1年間を振り返ると、充実した取り組みができました。私自身も、教員という立場でありながら、「兼職・兼業」という形を設けていただき、部活動指導に携わることができて嬉しく思います。指導については、部員も少なくチームとしては苦しいですが、その分、一人ひとり細やかな指導を心がけました。また、できる限り実践的な練習ができるように練習試合の機会もたくさん設けることができ、

生徒も意欲的に部活動に取り組んでいる様子が伺えました。課題は、今後安定した活動時間の保障を考えたとき、指導者が二名体制であると不測の事態にも対応できるのではないかと考えます。

今年は、私用も重なり数回、活動できない日があったことは、大変申し訳なく思います。今後、部活動の地域移行が本格的に進んでいくことになると思いますが、教員の立場から考えると「兼職・兼業」という形も選択肢に残していただけると嬉しいです。

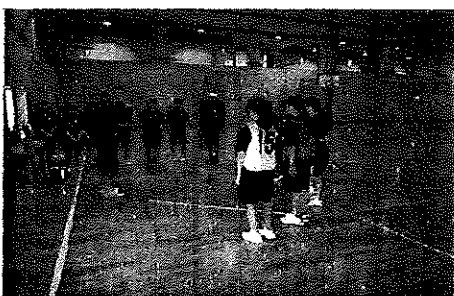
バドミントン部 指導者 J



何年かぶりに部活動の指導に携わることになりました。部活動は言うまでもなく学校教育の一環として、学習指導要領に位置づけられた活動です。現在教員の働き方改革の視点も踏まえ、学校と地域が協働で生徒の活動を支えようとしています。バドミントンの種目は遊びで経験した子どもは多いと思います。しかし、競技として行うためには、様々な技術や体力、判断力などが要求されます。私に与えられた役割としては、まず、技術面の指導だと思っています。ラケットの持ち方から指導し、フットワークや基本的なストローク練習に入りますが、個人差はあるもののなかなか難しいようです。何のためにこの練習をしているのかを常に説明しながら取り組んでいます。

一人ひとりが思うようにゲーム運びができるよう、ペアでの練習、ノック形式での練習、パターン練習などを取り入れ、全体のレベルアップに努めているのが現状です。

女子スケートボール部 指導者 C



一昨年の途中から地域指導者に加わらせていただき、以前から指導されていた奥村和彦先生のもと、勉強しながら指導をさせていただいています。地域運動部活動推進事業の目的は承知しておりますが、献身的に毎日指導されている奥村先生や顧問の先生と違い、曲がりなりにも仕事を持ち、休日しか参加できない私にとって、最大の悩みは生徒たちの変化（生活環境・身体心理状態等）について把握が難しく、その時々指導に自信が持てない、ということです。顧問の先生や奥村先生から教えていただいておりますが、毎日のように変化・成長する生徒の状況把握は、やはり日常的に生徒と接することでできるものであると思

います。

とはいえ、再びバスケットボールの指導をさせていただき、私自身の生活にも張りができ、充実した日々を送らせていただいています。生徒とともに、バスケットで一喜一憂し、その成長を感じることは本当に楽しいことです。

また、保護者の方々のご理解ご協力が必要であることも重要です。子供たちのために支援して下さる活動・行動がなければ成り立ちません。他の運動部で頑張っておられる指導者の皆様も感じておられることと思いますが、この事業が生徒のため教員のためだけではなく、多くの方々を巻き込みながら、地域活性のための事業になってほしいと思います。

ソフトテニス部 指導者 F



地域運動部活動に携わって2年が経ちます。2年目ともなると卒業と入学を向かえ、生徒達が変わっていくと共に集団そのものの色も変わります。上級生になり意識向上し成長した様子を見ると嬉しくなります。「ソフトテニスの楽しさ」を感じ、生涯スポーツの一つとして継続していただけたらと思っています。そのためにも、目標を持ち、達成に向かって努力する力を身につけ、何らかの結果を得てくれたらと思っています。

学校教育の一つとしての部活動、学校顧問との連携は不可欠です。現在は、先生方のご協力をいただき生徒達の様子等は共有できていると感謝しています。また、保護者の皆様には費用負担や送迎にご協力・ご支援いただき感謝しています。永遠の課題ですが、屋外種目ゆえ天候やコート状況により、活動内容、実施回数が変動して制限が生じます。体育館使用の部には引き続きご協力いただきながら内容の工夫に努力したいと考えています。

剣道部 指導者 H

近隣の中学校で、剣道の経験のない顧問のチームが何度か本校へ合同稽古を求めてやってきました。有り難いことです。そのようなときは引率も顧問でなく保護者代表でも良いと思います。来てくれる学校の部員の中でも、出稽古している子と部活だけの子では明らかに技術も礼法面でも差があります。

3年生が引退した後は2年生全員がスポーツ少年団で小学校から経験しているメンバーです。まず休みません。それに影響されてか、ここ最近では1年生もずる休みする部員はいません。1年生には一級に合格し初段を、2年生には次の二段を目指してしっかり稽古するようにと話しています。本人達もその気になっているようです。段位制度があるお陰で励みに成り目標がはっきりしてきたのだと思います。課題としては、やはり男女ともに団体戦を戦えるように部員を確保することです。



卓球部 指導者 D



卓球部は男女合わせると30人を超えます。一緒に活動する事は卓球台の数を考えても無理ですし、指導も一人では大変です。今年から協力を頂いて二人でおこなうようになりました。

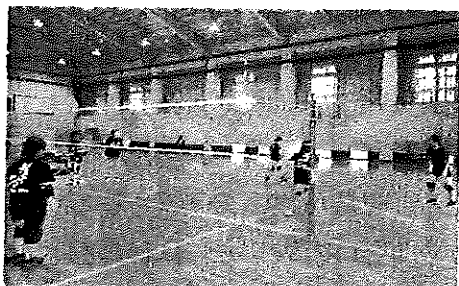
今期もコロナの影響は継続的でした。時間は3時間程度となっていますが、卓球部は大所帯の為、男女それぞれで2時間で行っています。他の

部活と比較しても差は大きいです。現状生徒から不満の声は聞こえてこないものの、将来的には確保したいものです。限定された中で工夫して、生徒の成長と成果は以前同様であり、今後も内容を吟味しながら実施します。

先生や学校との連携も問題はありません。生徒それぞれの持つ事情により活動の制限があるものの、先生と情報共有しておこないます。生徒も卓球を好きでいてくれるので、そこは損なわれないように継続します。

課題はより成績の向上と、レギュラーになれなくてもあきらめずに成長できるように全員を底上げし、まんべんなくコミュニケーションを取ることです。

バレーボール部 指導者 K



地域運動部活動のバレーボールでは、現在十三名の部員が活動しています。中には初めてバレーボールを経験する生徒もいます。

練習内容は、生徒が戸惑わないように学校の先生と調整を図り、学校ではチームプレーを、地域運動部活動では、体力づくりと個人技能の向上を目指して活動しています。しかし、基礎体力づくりや基本の反復練習で、生徒の活動意欲をどのように高めたらいいのか反省と試行の連続ですが、小さな進歩に喜びを感じながら活動しています。

試合に勝つことも大切ですが、バレーボールという集団的スポーツを通して、励まし合い助け合う中で人との関わり方や、忍耐力など生きる力を培ってくれることを願って指導に関わらせていただいています。初心者の方も大歓迎です。部活動を通して多くの仲間をつくり、心も体も大きく成長してくれるようサポートさせていただきたいと考えています。

部員の感想

男子バスケットボール部

僕達男子バスケットボール部は、2年生5人、1年生5人の10人で充実した部活動を先生、仲間と共に過ごしています。僕達は「県大会ベスト4」を目標に、日々ハードな練習に取り組んでいます。平日見て頂いている顧問の先生が、地域運動部活動も強い熱意の下、指導してくださっています。そのため、練習の仕方やチームの方向性に戸惑うことなく、活動できていて、休日の自分の時間を割いてまで僕達に教えてくださる先生にとっても感謝しています。「県大会ベスト4」という目標はまだまだ遠いかもしれませんが、地域運動部活動を通して、チーム層が徐々に厚くなってきた実感があります。メンバーが欠けてもその分を補える、そんな強いチームを作っていきたいと僕は思っています。僕自身、シュート力や間合いの取り方、体幹の強さを更に身につけてチームの勝ちに貢献したいです。



女子バスケットボール部

私は地域運動部活動に参加して、バスケットボールにとっても真剣に打ちこむことができていると感じます。土曜日だけでなく、日曜日も時間をとっていただけて今までより練習時間が長くなり、質も向上しています。それは私だけでなく他の部員も感じているようです。初めは練習量が多いので大変かなと思っていましたが、楽しみながら練習ができてどんどん上達していくのを感じられるので大変さを感じません。逆に仲間と過ごす時間が多くなり、絆が生まれたり意見を言い合ったりできるので練習をもっとしたいと思えます。

このような環境を作ってくださいる人達に感謝してこれからもがんばっていききたいと思います。



ソフトテニス部

私は、地域運動部活動に参加して利点が二つ見つかりました。一つ目は、自分の練習時間が大きく増えて、よりテニスに熱中できるようになったことです。平日の部活動の時間だけでなく土日の練習時間が増えたことにより、テニスの技術力の向上に大きくつながると思いました。

二つ目は、違う視点からテニスを教えてもらえることです。テニスでは打つポイントなどがたくさんあり、そのポイントをいろんな方から教えてもらうことで自分が打ちやすいポイントや打ち方が見つかります。また、地域運動部活動の先生が女性だということもあり、女性の打ち方のポイントなどを教えていただけることも利点の一つだと思います。

剣道部



私たち剣道部は現在、男子6人、女子3人で活動しています。個人および団体での県大会出場を目指し、日々練習しています。

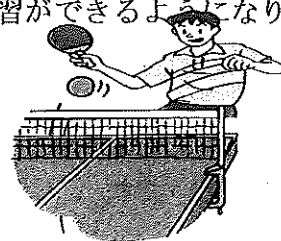
顧問の先生は二人おられますが、残念ながら二人とも剣道の専門ではないので技術的な指導をしてもらうことができません。そのため、地域部活動で専門の指導者に来ていただいて教えてもらえるのは、とてもありがたいです。また、剣道の専門でないとわからないことを丁寧にわかりやすく、細かいところまで教えてくださるので、剣道初心者から始めた一年生もどんどん上手になっていくのがわかります。また、引き締まった雰囲気でも練習できるようになりました。

専門の指導者がおられるおかげで、チームの意識が変わってきているのを感じています。このまま部員全員で県大会出場を目指して、日々練習に取り組んでいきたいと思います。

卓球部男子

私はキャプテンとして、部員のことを考えながら何を練習するのか決めていきます。平日は、練習時間が少なく、何をしようか考えているうちに時間が過ぎてしまい、あまり練習にならないこともあります。しかし、地域運動部活動のコーチが来てくれている日は、練習内容について細かく教えてくださるので、自分も練習に集中することができるようになりました。

最近の練習では、一人ひとりの課題に合わせた「課題練習」に取り組んでいます。本来は、自分で苦手なことや取り組みたい練習を考えるのですが、なかなかうまくいきません。地域運動部活動のコーチが私たちの試合を見てくださることで、部員一人ひとりの長所と短所についての助言がもらえ、その人に合った練習ができます。私自身も、以前より自分に合った練習ができるようになりました。



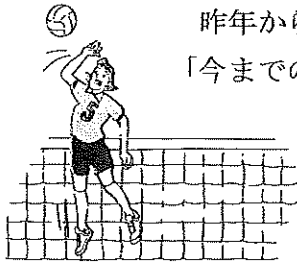
卓球部女子

私達女子卓球部は23人で活動しています。そのため、どうしても個人個人へのアドバイスより全体を見たアドバイスが多く、自分のレベルに合った練習があまりできなかったことが多かったです。しかし地域運動部活動に加入したことで今まで以上に有意義な時間へと変わりました。

まず、大きかったのは個人の意志を尊重したアドバイスと課題解決に向けた取り組みです。本人の苦手意識を踏まえた上で、それに合った練習方法を提示するなど、「個人」に視点をおいた練習が可能になりました。また、このことによりコーチとのコミュニケーションの場が増えたので気軽に質問ができるようになりました。

地域運動部活動に参加して得た利点を活かしてこれからの部活動を充実させ、自分自身のレベルアップに努めたいと思いました。

バレーボール部



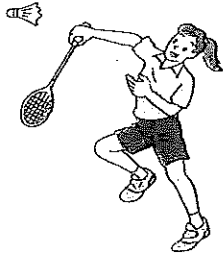
昨年からバレー部も地域運動部活動に参加することになりました。

「今までの部活動と何が違うんだろう」「全く違うバレー部になってしまうのかな」と不安でしたが、顧問の先生方と地域運動部活動の指導者が協力してくださり想像していた以上にバレーに打ち込むことができています。

私たちの代の目標は「県ベスト8」です。しかし、チーム全体が小さく勝ち上がるには厳しいです。チームのみんなと力を合わせて、毎日しっかりと練習を行い、新チームでの初めての大会では県大会ベスト8に入ることができました。これも地域運動部活動に参加できたおかげだと思います。

今後も、顧問の先生方と指導者の方々に助けていただいで稲枝中学校バレーボール部の伝統を守っていききたいです。

バドミントン部



今年から「地域運動部活動」という制度が設けられた。実際、参加してみた感想は大満足だ。練習は正直辛く、激しくはなったものの、それで得られた「体力」「技術」「戦略」が試合でいかされてる。

目に見えるように向上していく「技術」。今までの部活では「ああしろ」とだけ言われていたが、今は「～だから、ああしろ」と理由をつけて指導されている。理由をつけることで「戦略」や無駄に体力を削らない「技術」が身につくのだなと感じている。当然、知らない練習法だって出てくる。でも最初に必ず「～力をつけるため」と説明されることで、自然とモチベーションも上がっているのだろう。スポーツの醍醐味はやっぱり「試合に勝利する」こと。その勝利につながる組片と一片を、ただ埋めていくだから。

稲枝中学校地域運動部活動推進事業の取り組み

地域運動部活動推進事業事務局

木村輝男

稲枝地区学校支援協議会の組織の中に地域運動部活動推進事業を位置づけ、モデル校としての実践が2年経過しました。

今年度は7つの運動部において4月から当初の計画どおり実践することができました。

その間、県教育委員の方々の視察をはじめ、各県教委等の訪問や報道機関等からの取材など多数あり、本校の取り組みを紹介する機会を得ることができました。



【卓球部練習】

多くの来訪者の感想は「組織化が図れている」、「稲枝だからこそできる」、「地域や保護者の理解がある」等々でした。言い換えれば、学校と一緒に「*地域の子供たちは地域で見守り育てる*」ことの実践であり、地域指導者の熱心な指導や保護者の方々の理解によるものであります。

この地域部活動推進事業は、「教職員の働き方改革」を行ううえで出されたものですが、生徒側に立つと、学校生活が学習面だけでなく部活動によって自分の生きがいを見だし「高度な技術や目標を持って取り組みたい、能力を高めたい、充実させたい」と願っている生徒が大半であります。こうした生徒や保護者の期待に応えるためにもこの事業は前進させなければ成らないと思っています。

一方、この事業によって、先生方にとっても日々の教科指導を中心に子ども達に向き合う時間を確保し、熱心に指導してもらえることを願っているところです。

そして、忘れてはならないのは、地域指導者の方々が自分の時間を割いて献身的に関わっていただけて成り立っていることです。このことは、稲枝地区学校支援協議会の狙いでもあります。

今年度の取り組みの課題や成果をまとめ、次年度に生かせ前進していきたいと思えます。今後とも、地域の皆様や保護者の皆様にはご支援ご協力をお願いします。



(10/7)ふれあい教育対談（県教育委員視察）

稲枝中学校区 学校支援ボランティア、地域のみなさん 学校支援、学習指導、地域部活指導 この一年間、本当にありがとうございました

今年もコロナ禍の一年間でした。オミクロン株の出現によりコロナ感染者は爆発的に増加しました。しかし、重症化する割合が低く、学校・園では、学校行事等を縮小簡略化された部分もありますが、教育活動は平常に戻りつつあります。このような中で、年間を通して日常的またスポット的にご支援いただいたボランティアのみなさん、また連合自治会をはじめ青少年育成協議会、青少年指導委員、民生児童委員会、社会福祉協議会、公民館、各地区老人会等の各種団体のみなさん、ありがとうございました。ぜひとも、今活動されているボランティアのみなさん、お願いします。

藤田治夫さん、学校支援
15年DA

学校支援地域協働本部事業の様子

稲枝中学校支援地域本部事業として、学校支援事業、地域未来塾事業、地域運動部活動推進事業の3方向から活動を実施しました。その様子の一部をご紹介します。



【卓球部練習】

地域運動部活動推進事業

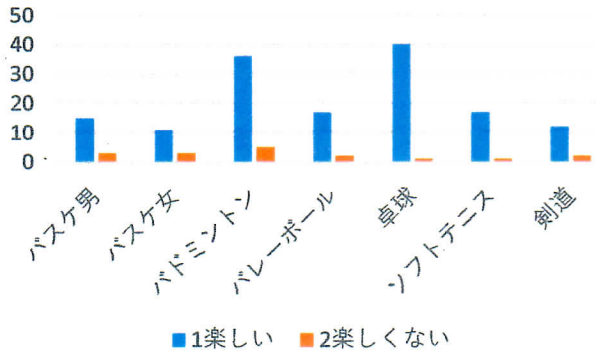
稲枝中学校地域運動部活動推進事業の取り組み
地域運動部活動推進事業事務局

木村輝男

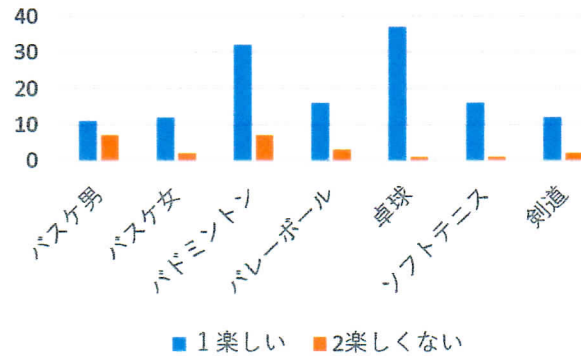
稲枝地区学校支援協議会の組織の中に地域運動部活動推進事業を位置づけ、モデル校としての取り組みが2年経過しました。今年度は7つの運動部において4月から当初の計画どおり実践することができました。その取り組みを紹介する機会を得ることができました。「稲枝だからこそできる」、「地域や保護者多くの来訪者の感想は「組織化が図れている」、「地域子どもたちは地域で見守り育てられている」等々でした。言い換えれば、学校と一緒に「地域の子どもたちは地域で見守り育てられている」と願っている生徒が大半であり、この地域部活動推進事業は、「教職員の働き方改革」を行ううえで出されたものですが、つと、学校生活が学習面だけでなく部活動によって自分の生きがいを見出し「高度な持って取り組みたい、能力を高めたい、充実させたい」と願っている生徒が大半であり、た生徒や保護者の期待に応えるためにも、この事業は前進させなければならぬと思の事業によって、先生方にとっても日々の教科指導を中心に子ども達に向って、地域指導者の方々が自分の時間を割いて献身的に稲枝地区学校支援協議会の狙いでもあかせ前進していきたいと思

生徒用 部活動についてのアンケート集約結果

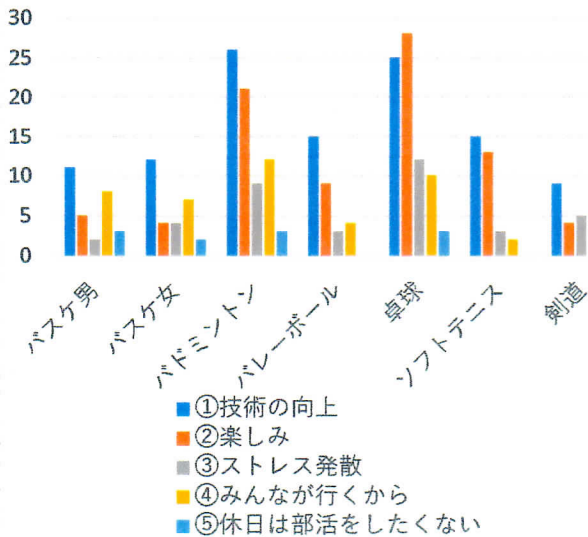
1. 平日の部活動



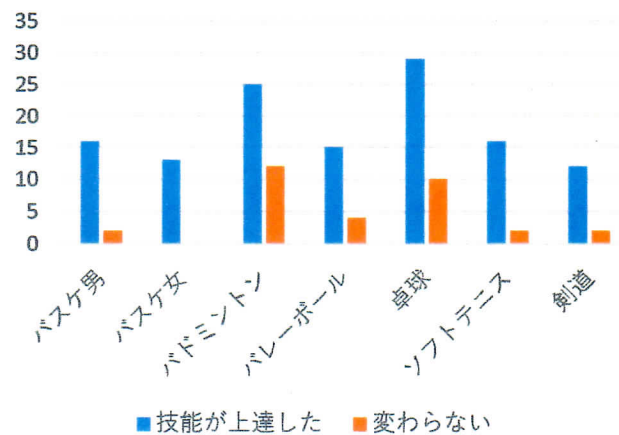
2. 休日の部活動



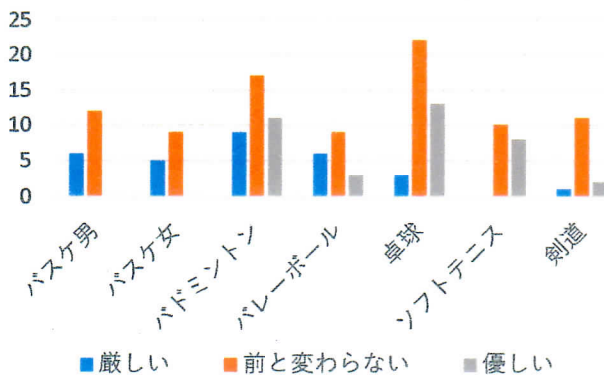
3. 休日の参加目的



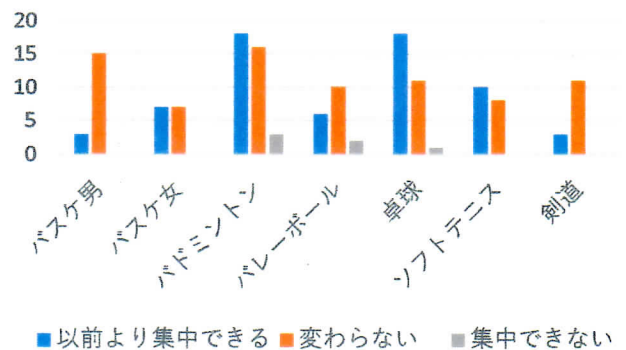
4. 技術の向上



5. 休日の指導は

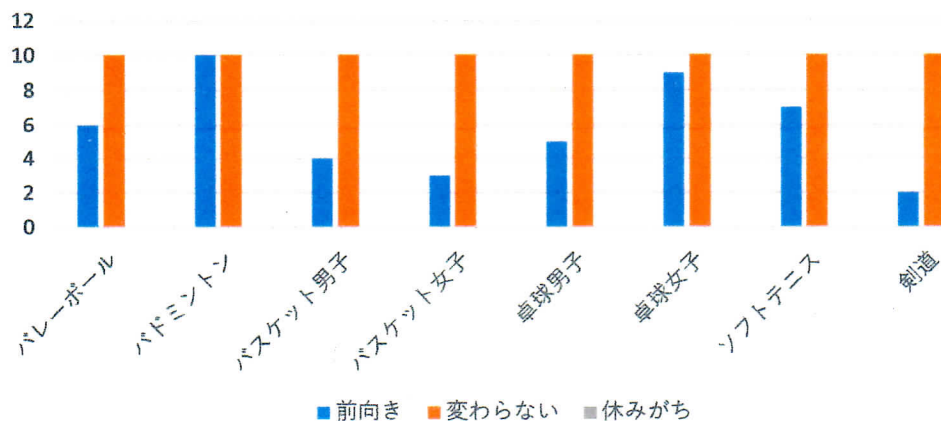


休日の部活は

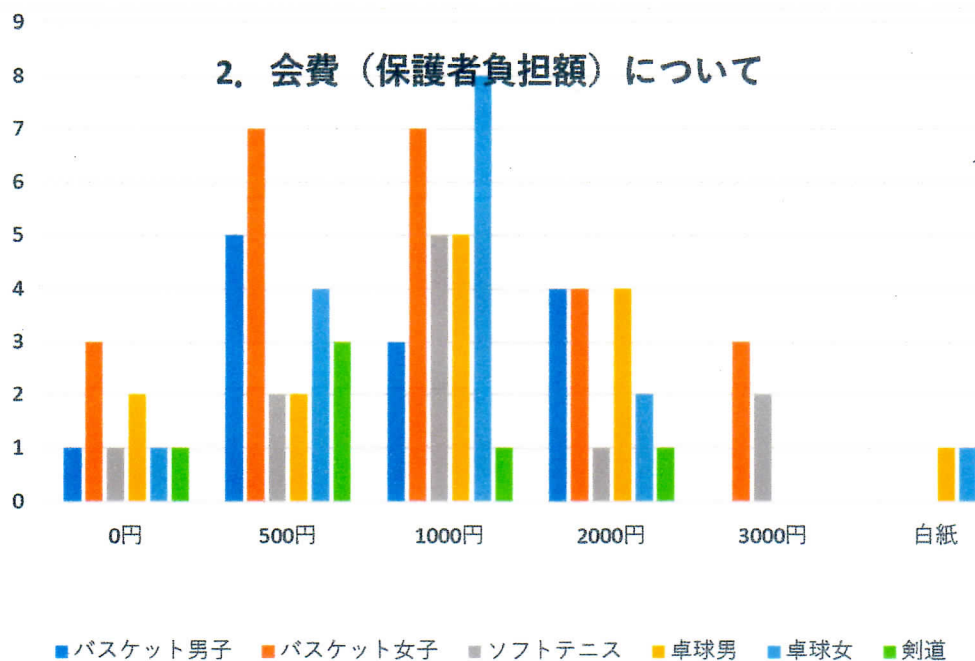


保護者用 アンケート集約（抜粋）

1. 地域運動部活動になる前と比較して



2. 会費（保護者負担額）について



令和4年度地域運動部活動推進事業

休日の部活動の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書

自治体名	米原市教育委員会 担当課：教育委員会事務局(教育部)スポーツ推進課 電話番号：0749-53-5155
------	--

1. 事業の概要について

1.1 基本情報（令和4年度4月末時点）

① 中学校数	1校	② 生徒数	143人	③ 部活動数	4部活
--------	----	-------	------	--------	-----

1.2 地域における現状・課題

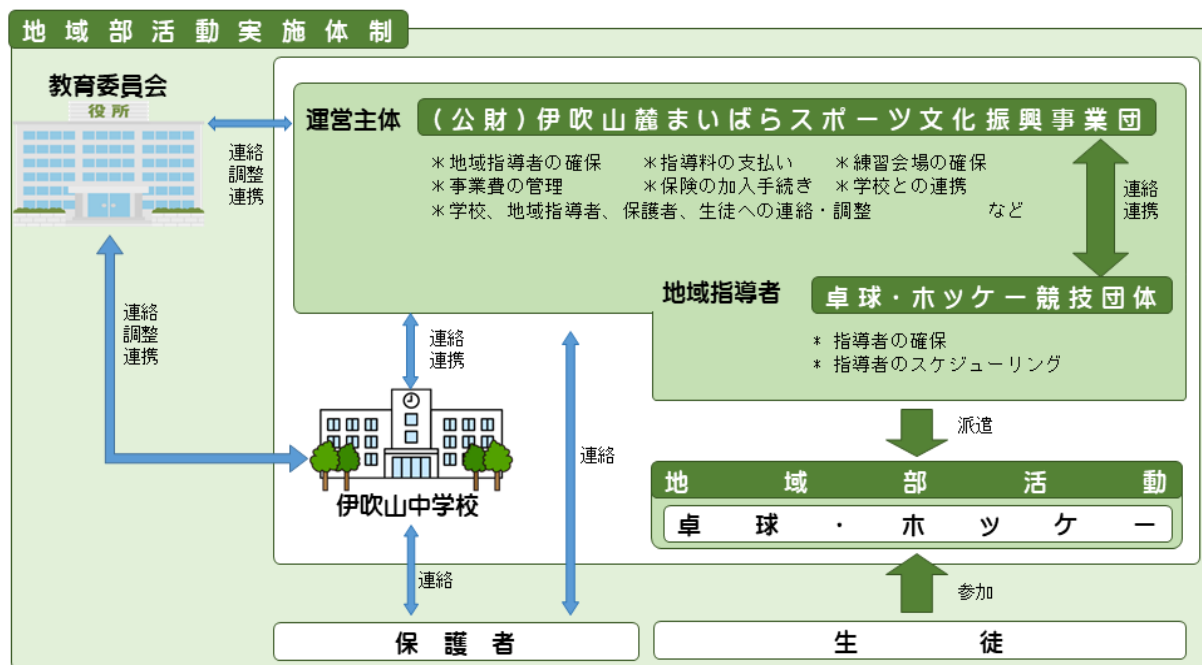
拠点校のある地域は、地域の競技経験者が外部指導員やボランティア指導員として、これまでから部活動に関わりがあった地域です。また、各競技団体が小中学生を対象とした普及活動や競技力向上の取組を行っていたことから、地域移行に向けた環境があった。

ただし、任意団体である競技団体では、学校部活動自体を担うことが難しいため、学校部活動の地域移行の意義を理解し、部活動ガイドラインに即した運営が可能な団体の確保が課題であった。

1.3 実践研究における取組目標

- * 休日の学校部活動を地域部活動として実施可能な体制づくり（運営主体の構築）
- * 地域指導者の確保および学校と地域指導者との役割分担
- * 地域部活動における受益者負担の在り方
- * 地域部活動の実施に係る経費

1.4 実践研究の運営体制



教育委員会事務局スポーツ推進課	運営団体との連絡・調整・連携
教育委員会事務局学校教育課	拠点校との連絡・調整・連携
米原市立伊吹山中学校	地域部活動推進事業の実践
(公財)伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団	地域部活動推進事業の実践

2. 地域連携や地域移行の推進に向けた体制整備の取組について

休日部活動に係る会議等

日時	内容
4月10日(日)	地域部活動(ホッケー部)関係者会議 出席者：地域指導者、ホッケー部担当教諭、事業団ホッケー担当者
4月15日(金)	地域部活動推進事業に係る打合せ 出席者：拠点校校長、事業団、行政(学校教育課・スポーツ推進課)
4月16日(土)	地域部活動(卓球部)関係者会議 出席者：地域指導者、卓球部担当教諭、事業団卓球担当者 行政(スポーツ推進課)
5月12日(木)	地域部活動に関する保護者説明会 出席者：参加生徒の保護者、拠点校校長、運営主体、 行政(学校教育課・スポーツ推進課・県教委保健体育課)
1月22日(土)	地域部活動(ホッケー部)関係者会議 出席者：地域指導者、事業団ホッケー担当者
2月9日(木)	地域部活動推進事業に係る連絡協議会 出席者：有識者、拠点校校長、地域指導者、行政
2月26日(木)	地域部活動(卓球部)関係者会議 出席者：地域指導者、事業団卓球担当者

3. 実践研究校における取組について

3.1 実践研究校情報

① 実践研究校数	市内全6中学校のうち、1校が実践研究に参加
② 実践研究に取り組んだ部活動数	4部活
③ 種目	卓球部・ホッケー部

≪主な取組例(1)≫…米原市立伊吹山中学校

① 運営主体	(公財)伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団		
② 種目	卓球部(男子・女子)	④ 参加者数	延べ708人
④ 活動日	主に土曜日	⑤ 活動場所	伊吹山中学校体育館
⑦ 指導者人数	6人	⑧ 謝金単価	1人あたり1,600円/時間
⑨ 指導者属性	米原市卓球協会において所属の指導者6名を確保し、指導者として派遣		
⑩ 参加会費の有無・金額	徴収あり(保険料相当)		(1人あたり：800円/年額)

≪主な取組例(2)≫…米原市立伊吹山中学校

① 運営主体	(公財)伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団		
② 種目	ホッケー(男子・女子)	④ 参加者数	延べ1,077人
④ 活動日	主に土曜日	⑤ 活動場所	伊吹山中学校グラウンド 米原市伊吹第1グラウンド(市有施設) OSPホッケースタジアム(県有施設)
⑦ 指導者人数	5人	⑧ 謝金単価	1人あたり1,600円/時間
⑨ 指導者属性	滋賀県ホッケー協会において所属の指導者6名を確保し、指導者として派遣		
⑩ 参加会費の有無・金額	徴収あり(保険料相当)		(1人あたり：800円/年額)

3.2 参加者の声（生徒、保護者、教師、指導者等）

＊ 生徒・保護者

卓球およびホッケーについては、各競技団体等が小中学生を対象にした普及活動や競技力向上の取組を行っていたところであり、伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団が学校や各競技団体等と連携し、コーディネートすることで、生徒の練習環境を大きく変えることなく休日の部活動を地域部活動として実施できた。

＊ 教師

部活動担当教師も出役し、地域指導者が実践指導を行う体制での地域部活動であったが、学校からは「教師も交代で休みが取れるようになってきている。」「地域運動部活動が始まって何年かは、地域指導者とのやりとりなど業務量が増えると考えている。」などの意見があった。

＊ 地域指導者

生徒間のトラブル・怪我が発生した際の対応について意見があった。

3.3 各実践研究校での取組を通じて挙げた課題や解決方法、取組において特に工夫した点

- ＊ 学校部活動を地域移行する体制の構築
- ＊ 対応責任の明確化
- ＊ 地域指導者の確保
- ＊ 学校・部活動担当教師と地域指導者の連携

4. 実践研究の成果と今後の課題

4.1 実践研究での検証から得た成果

■ 学校部活動を地域移行する体制の構築

競技団体が指導者を派遣し、その他の多岐にわたる事務的な業務、学校や競技団体・指導者と連携するためのコーディネート機能を伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団が担い、休日部活動を地域部活動として実施できる体制を形づくることできた。また競技団体ではない事業団が核となった体制により、部活動ガイドラインに即して実施することができた。

学校部活動の地域移行の試行段階および学校部活動の教育的意義の継承すべきものとの観点から、地域部活動においても卓球部およびホッケー部担当教師が出役する体制での実施だったが、複数人いる担当教師が交代で休みをとることができた。

■ 対応責任の明確化の必要性

部活担当教師も出役し、地域指導者が実践指導を行う体制での地域部活動であり、大きなトラブルや怪我はなく実施できたが、地域指導者にとって指導以外を担うことは、不安やプレッシャーになることを関係者で共通認識できた。

■ 地域指導者の確保の方法

伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団が運営の核となり、競技団体と連携した指導者の確保方法により、学校部活動の地域移行の意義や部活動ガイドラインに理解のある地域指導者が確保できた。

4.2 地域移行における今後の課題と対応

